

文化財ニュース

発行 赤穂市教育委員会
編集 生涯学習課文化財係
(赤穂市加里屋81 TEL3-3201 内線287)

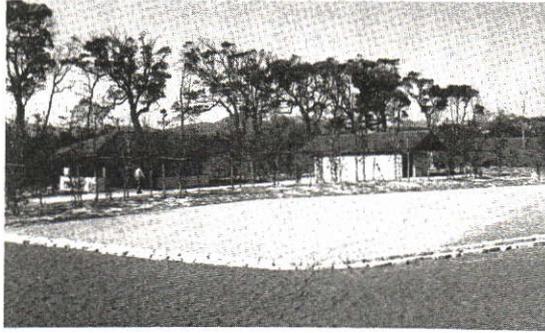
No.1

赤穂城本丸跡一般開放 本丸庭園完成

赤穂市が、昭和57年度から続けていた赤穂城本丸跡の整備が、休憩舎や便所、くつろぎ庭園も出来あがり、おおむね完成しました。

これまで、表御殿庭園、奥御殿坪庭、御殿跡地間取り復元、土塁再生、植栽と順次復元整備を進めてきましたが、往時の姿らしい大名庭園としてよみがえりました。

今後は、21世紀に向け本丸門の復元（高麗門・櫓門の建設）をはじめ厩口門や刎橋門



休憩舎・便所

石垣復元など諸門を整備し、本丸史跡庭園全体が大名庭園の風格イメージをかもし出せるよう、全国でも例のない独自のな城郭庭園にしていく予定です。

〔表御殿庭園〕

曲線と直線を入り混じえた護岸、池底には瓦敷きと石張りなど幾何学的とさえみえる特異なつくりで現代にも通じる感性を備えています。

御殿跡を巡る旧上水道モニュメント流水路、池泉に浮かぶ中島や突き出た岬は、往時の姿をしのぶことができ、池泉周辺の芝生や松の緑、水面の青、紺碧の空は、幻想的な世界をつくりあげています。

〔奥御殿坪庭〕

北面に岬をつくり、汀線は曲線、東・西・南の三方は、漆喰壁にこぶし大の河原石をはめ込み、あられこぶしの瀬をつくり、舟形の二重淀に注がれ、池辺のモミジが水面に映っています。

〔くつろぎ庭園〕

汀線は割石による曲線、水辺には水生植物が生え、周りには黒松・梅・竹・柳などの中高木、野菊・スイセン・アヤメ・オモトなど地被類が、四季折々心をなごませ、散策を楽しませてくれます。

本丸庭園一般開放

平成3年度は、市制施行40周年、赤穂城跡国指定20周年、築城330周年にあたり、本丸整備が前述のとおり完成したのを期に一般公開しますので、

ご自由に鑑賞ください。
公開期間は11月まで毎日午前9時から午後4時30分まで、12月から2月の間は雨天時、土・日曜、祝祭日は閉園となります。

市民の皆さんに本丸庭園をより積極的に利用していただくため、グループ・諸団体に開放します。問い合わせ、申し込みは教育委員会（☎③201内線287）までお願いします。



くつろぎ庭園

本丸庭園は、観月会、菊花展、茶会、短歌会、俳句会、屋外音楽会、盆栽展、花見会、さつき展、星観察会、歌会、緑花まつりなどに多様に利用してください。

また、赤穂城跡全体を活用した探鳥会、写生会、写真撮影会、ウォークラリーやオリエンテーリングなどを催され、市民生活の中に赤穂城を育んでいただき、名実ともに赤穂市のシンボルである赤穂城を市民の憩いの場としてよりよくご活用ください。

市文化財指定 東有年・沖田遺跡、黒崎墓所



黒崎墓所

術2件、合計11件となりました。そのほか市内には、国指定文化財7件、県指定文化財10件があります。

赤穂市教育委員会では、平成27年度（3月30日付）市指定文化財として東有年・沖田遺跡と黒崎墓所を2件指定しました。

〔東有年・沖田遺跡〕

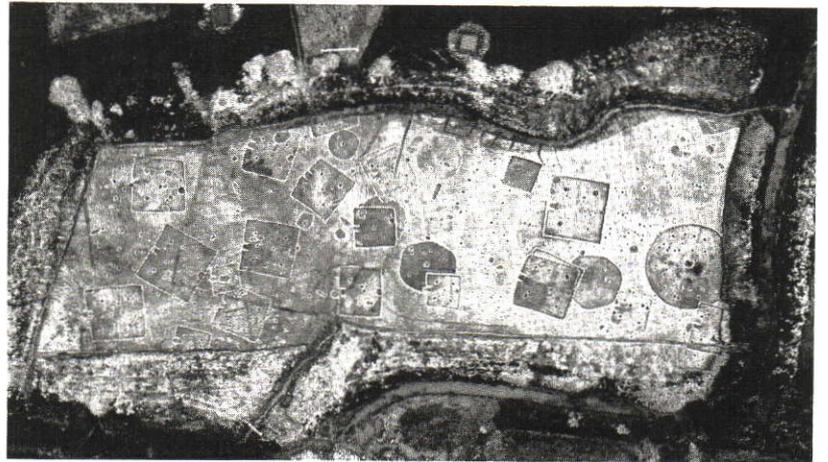
縄文時代後期（3000年前）から室町時代（1600年前）にかけての複合遺跡である。馬路川周辺から細長く南東に伸びる沖積地の最南端にあり、国道2号線と高周波熱線にはさまれた場所にあります。

発掘調査では、県下最大級の弥生時代後期（1000年前）の竪穴住居址をはじめ7例が出土しました。

また、古墳時代後期（6世紀中頃〜7世紀初め）の住居址群

22例を数え、すべて四柱穴の方形住居で、北にカマド、南に土抗、中には中央に炉跡をもつものもあります。遺物も国内最古級の土馬をはじめミニチュア土器、鉄鏃、紡錘車、須恵器、土師器などが出ました。古墳時代後期の住居や生活をさぐるものにして全国でも注目され学術的に高い遺跡であります。

〔黒崎墓所（他所三昧）〕



東有年・沖田遺跡

坂越湾の西南端黒崎にあり、墓石60余基。埋葬者は、過去帳、関係浦状、墓石銘などから、大半の名前や出身地がわかり、宝永7年（1710）から文久2年（1862）まで136人、北は出羽、南は薩摩種子島、東は伊豆、南は対馬に至るまで29カ国を数えます。当所は、確かな史料で裏付けされ、坂越を物語る史跡として貴重であります。

書院庇屋根修理完成 （田淵氏庭園）

国の名勝指定されている田淵氏庭園で、書院庇屋根保存修理が完了しました。

書院庇屋根である広小舞、小舞まで腐朽化していましたが、田淵新一郎さんが専門業者に依頼して、在来工法に従って修理されていたものです。

作業は、周囲を足場組みした後、桧皮葺の取りはずしから始まり、痕跡、墨書などの在来手法や、歴史資料を尊重し、腐食した木材の取替え、桧皮の葺替えなど、一点一点ていねいに修理するもので、実に根気がいる仕事です。

田淵氏庭園は、17世紀後半に造成され、三崎山の山麓から中腹にかけての傾斜地であり、上段に位置する明達楼、春陰齋の2つの茶室に付随する庭園と、下段の書院の池庭

からなっており、江戸中期の姿をとどめた名園として昭和62年5月、国の名勝に指定されました。

昨春秋には、市文化振興財団と田淵家の共催で、初めて一般公開されました。



田淵氏庭園書院

市文化財保護審議会

委員委嘱

赤穂市文化財保護審議会委員を5名委嘱し、会長に高見甲久氏が選任されました。

- 会長 高見甲久（記念物）
- 委員 八木哲浩（歴史）
- 〃 和田邦平（民俗）
- 〃 磯博（工芸）
- 〃 今里幾次（考古）



赤穂市文化財保護連絡員発足

あらゆる文化財情報を!!

赤穂市教育委員会では、市内に存在する文化財を、後世に末長く継承し保護するため、「赤穂市文化財保護連絡員」

を兵庫県下ではじめて発足しました。

その職務は、ボランティア活動の一環として、文化財に関する情報を、教育委員会に連絡・提供してくれるものがあります。市民の皆さんも、

気楽に相談したり協力し合っ
て、貴重な歴史文化遺産を子孫に伝え、未来に引き継いでくださるようお願いいたします。

文化財に関する情報とは、各家庭で不用になった農機具や民具、家具などの歴史資料の市への取り次

ぎ、古墳などの遺跡や埋蔵文化財に対する開発情報や現況報告、民俗資料館、歴史博物館への連絡などです。

地域の文化財を、地域住民の方々とともに理解を深め、文化財に対する愛護の気持ちを広めて、郷土の誇りを育てるものです。

- 赤穂 三谷百々 ② 1666
- 山田明憲 ③ 1110
- 北畠恵子 ② 5525
- 塩屋 西中正次郎 ② 4310
- 河部元一 ② 2662
- 北川隆一 ⑤ 0012
- 福浦 石中清三 ③ 0442
- 吉栖清美 ③ 0430
- 尾崎 上杉太郎 ③ 1016
- 中村良廣 ⑤ 2370
- 御崎 西田 勝 ② 2898
- 山脇拓士 ③ 1618
- 坂越 唐崎安也 ⑧ 8065
- 大西 孜 ⑧ 8253
- 魚本美智子 ③ 8579
- 高嶺 松井恕乎 ⑧ 8296
- 前田 正 ⑧ 7455
- 宮下 斉 ⑨ 2475
- 横山博光 ⑨ 2358
- 井上益雄 ⑨ 2287

清水門跡整備完成

情緒あふれる往時の姿

史跡赤穂城跡

の清水門跡周辺整備がこのほど完成しました。

外堀に突き出た石垣積みみの陸橋、武家屋敷公園から広がる外堀護岸石垣、これらをつなぐ木製の欄干橋などが復元され往時の姿

によりがえりました。米蔵風の赤穂市立歴史博物館と武家屋敷公園を含めたゾーンは、私たち

ことでしよう。

復元整備に先立つ発掘調査では、米蔵跡から城内の武家屋敷に通じる通路の石垣根石跡などが見つかりました。幅6m、長さ16mを測る橋脚跡、清水門枳形跡、護岸石垣など古絵図にもない貴重な遺構が検出され、当初の計画を変更し、出土した遺構を保存し、復元整備したものです。

清水門は、赤穂（江戸の刃傷）事件後、大石内蔵助が城開け渡し時、名残りを惜しみつつ去っていった門として有名な門でもあります。

復元整備は、根石の上に三段の石垣を積み盛り土をし、両サイドの盛り土には植栽、砂利敷き風の舗装、木製欄干橋を設けて、歴史情緒をワンポイントほど高める一方、歴史博物館沿いの堤の柳、堀水面に映える白壁の蔵などメリハリある情緒をかし出し、来訪者の人

気と一緒に集めています。

復元整備は、日本古来の伝統工芸を基礎に、江戸時代の様相をイメージで統一したため、近年にない魅力的なものとなり、城のもつ風格を形成させたのが特徴であります。そして、この歴史性の中に、

赤穂の新しい街づくりとして、赤穂市の個性と魅力を高め、城跡整備のもたらす有形無形の恩恵を広く私たちに与えてくれるものと確信します。

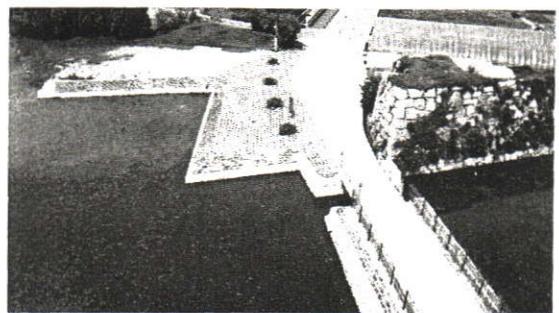


清水門跡発掘

の江戸を一種のタイムスピリットに導き、情緒あふれる歴史空間を提示して



欄干橋



清水門跡復元完成

町かどの 小さな文化財

しるべ

道標は、かつて往來の交差点の一隅で、旅する多くの人達の道案内の手助けとなつたものですが、交通機関の発達で、時代とともに忘れ去られる一方、戦後の道路改修などで取り除かれそのまま捨てられたり、片隅に放置されることが多くなっていました。

赤穂市教育委員会は、これら町かどの小さな文化財しらの再建に取り組んでいます。



道標

このように忘れられ、野ざらしの文化財にもスポットがあてられ、文化財愛護の気運がはぐくまれていくことは心強い限りであります。また、市内各地や残る文化財に対して、その価値を認識し、愛着の念をいただき、文化財愛護への関心を高め、市内外各所に



文化財案内図(看板)

これまで、関係者のご理解とご協力によって、坂越、新田、加里屋で建立することができました。

さきほど、有年地区の有志の方々から再建要望があり、関係機関のご尽力も得て、有年横尾に道標と道路元標の2基を設置しました。

説明板や標識をより多く設置していきます。

文化財案内看板は、赤穂城跡周辺と有年原小学校周辺に設置しましたので、家族、グループで史跡めぐりをしてみてはいかがでしょうか。日頃、気がつかなかった文化財に親しみ、ふるさとの再発見も期待できるものと思います。

文化財保護法

ご存じですか!!

文化財は、私たち祖先の文化遺産であり、一旦破壊されればもはや再現することはできません。また、現在の文化は、祖先の文化遺産を基礎に成り立っているのであり、将来の文化創造のため、これを保存し、さらに継承していくことは、現代に生きる私たちの責務であります。そこで、文化財保護法では国民の協力と義務が記されています。

埋蔵文化財とは、土地に埋蔵されている文化財であり、

これらの埋蔵文化財がある土地で工事(宅地造成・住宅建設など)を実施しようとする時は、届出が義務づけられています。

また、この付近で開発する時にも開発協議(農地転用申請、建築確認申請、開発許可申請協議)とは別個に教育委員会との事前協議が必要です。

なお、土木工事などで埋蔵文化財を発見した時は、教育委員会に届出してください。

◎連絡・照会先
赤穂市教育委員会
生涯学習課 ☎(33201)

教育委員会

図書紹介

▼周世入相遺跡

一冊800円(B4判266頁)

県道改修工事に伴う発掘調査報告書。弥生時代から江戸時代に至る複合遺跡。

▼有年原・田中遺跡

1冊500円(A4判143頁)

原小学校新築工事に伴う発掘調査報告書。弥生時代から室町時代までの貴重な遺構・遺物紹介。

▼赤穂の民俗その九―尾崎編

一冊300円(A5判329頁)
赤穂の民俗調査報告書9集
尾崎に伝わる風俗・慣習など数多く紹介。

▼赤穂塩業史料集 第2巻
一冊500円(A5判316頁)

主として近世赤穂塩業の生産関係に関する史料を収録。

▼赤穂塩業史料集 第3巻
一冊500円(A5判326頁)

主として近世赤穂塩業の経営関係に関する史料を収録。

これら図書は、歴史博物館 ☎(34600)、民俗資料館 ☎(21361)、教育委員会 ☎(33201)で販売しています。また、バックナンバーも多少在庫があります。

編集後記

◎今回、文化財情報を広めるため『文化財ニュース』創刊号をお届けします。

◎文化財保護は、市民一人一人の意識で達成されるものがありますので、市民総ぐるみで新しいまちづくりに努めましょう。

◎今後とも、市民の皆さんの積極的なご協力、ご支援をよろしく願います。(M)



文化財ニュース

発行 赤穂市教育委員会
編集 生涯学習課文化財係
(赤穂市加里屋81番地 TEL 3-6858)

No.2

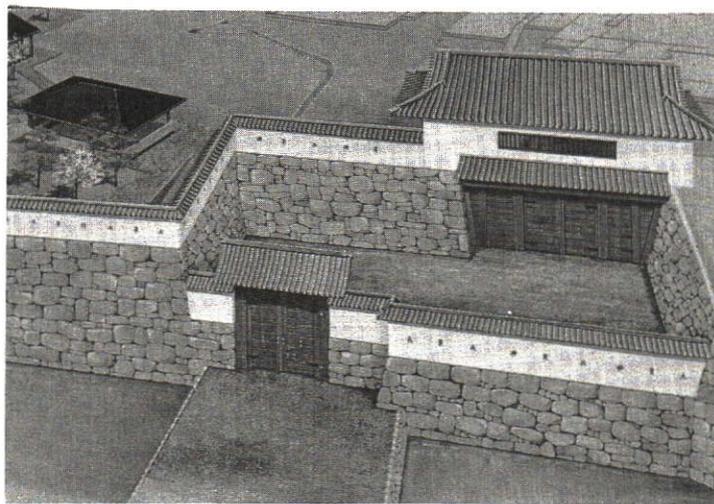
国史跡赤穂城跡 本丸門復元中!

赤穂市のシンボルともいえる国史跡赤穂城跡の本丸門復元整備事業が、平成四年度から四カ年にも及ぶ長期計画で進められています。

本丸門は、昭和二年(一九二七)に創立された旧制の県立赤穂中学校の校舎が本丸内に建設された時に、校門として大きく改変されており、本丸門櫓形の石垣はすべて撤去され、門周辺の石垣も一部積み替えられてしまい、当時の面影はほとんど残っていませんでした。

しかしながら、発掘調査を実施したところ、本丸門櫓形石垣の根石部分が幸運にも一部残存しており、明治一〇年代頃に撮影された古写真などの資料も残されていたことから文化庁の国庫補助事業として平成四年・五年度(地域中核史跡等整備特別事業)には撤去さ

れた本丸門櫓形の石垣を新石によって復元することができました(事業費平成四・五年度合計三三二・六二五・〇〇〇円)。復元された本丸門櫓形の高さは四・六mで、櫓形内の広さは二〇三・八四㎡(二一・四m×九・一m)もあり、非常に大きく立派なものとなりました。現在は、平成六・七年度の事業(史跡赤穂城跡本丸門復元事業)として櫓門(一の門)・高麗門(二の門)の復元工事(事業



本丸門完成予定図



本丸門上棟式

式(平成六年二月三日)などが古式に則って行われました。

また、市民の方々にも本丸門復元整備事業に参加いただき、記念に残るようにと瓦記帳会(平成七年二月四・五日)を開催いたしましたところ、寒風の吹くなかにもかかわらず、本丸門に葺かれる平瓦八〇〇枚にご記帳いただくことができました。瓦にはそれぞれの思いが込められ、和気あいあいとした非常に楽しい

記帳会となりました。市民のみなさんに見守られ本丸門はきつと立派に完成するところでしよう。

費平成六・七年度合計三〇三・四六八・〇〇〇円)が進められています。櫓門は石垣を含めれば高さ一一mにも及ぶ壮大なものとなります。また、ライトアップができるよう大型ライト二基が本丸櫓形内に設置され、待望の復元建物は、平成八年三月末に完成する予定です(総事業費六・七億円)。



本丸門瓦の記帳会

本丸西部 (赤高ランド通用門) 石垣復元工事着手

兵庫県立赤穂高等学校の運動場が二の丸西部にできた際に、本丸内にある校舎と運動場との通用門として本丸西部の石垣の一部が約一二・五mにわたって取り除かれていました。

赤穂市教育委員会では、撤去された本丸石垣を復元するため、通用門を閉鎖して石垣を積み直す石垣の復元整備事業を文化庁の国庫補助事業(史跡赤穂城跡保存修理事業)によって平成五年度から進めています。



本丸西部石垣復元工事

こうした新発見は、本丸内における排水路のナゾを解く大きな手がかりとなることでしょう。

平成五年度には、通用門と周辺の石垣の撤去が行われました。平成六年度からは石垣の積み上げ工事が着手されており、平成七年度には石垣復元が完了する予定です。

赤穂城では一般に打込み接ぎ技法の石垣が多いのですが、通用門周辺の石垣は一部野面石を使って積み上げられており、たいへん珍しい石垣といえるでしょう。

また、石垣の解体作業中に刻印のある石材が発見されたり、本丸外堀への排水口や、石組みの暗渠が新たに見つかりました。

赤穂城跡二の丸外堀の 発掘調査情報!

赤穂市教育委員会では、二の丸西部の外堀を復元整備するため、昨年一〇月から発掘調査を実施しています。

二の丸西部の外堀は、赤穂城廃城後に埋戻され、田畑として利用されてきたために、外堀の幅や、三の丸と二の丸西中門とをつなぐための橋の構造や、その規模についてこれまで詳しくわかっていませんでした。



西中門土橋石垣護岸

石垣の一部は改変されていたものの、発掘調査では、外堀の石垣護岸や、西中門の土橋等が確認されたほか、外堀南端部からは、古絵図にも見られなかった石積みによる堤防状の遺構が新たに発見されました。

外堀の石垣護岸が発見されたことよって、外堀の幅が概ね一四m前後であることが確認されました。また、西中門に取り付く土橋は両側を石垣によって護岸したもので、石垣が二段だけ残っており、約六mの幅で三の丸と二の丸をつないでいます。赤穂城では、門に取り付く多くの橋が木橋であるにもかかわらず、西中門の橋が土橋であることは非常に興味深く、土橋であるがために堀内の水は行き来できないこととなり、赤穂城跡のナゾは深まるばかりです。

小さな文化財案内 文化財説明標柱と文化財案内板

現在、赤穂市内には国・県・市に指定されている文化財が二十九件(国指定七件・県指定一三件・市指定九件)ありますが、それ以上に数多くの未指定文化財が残されています。



文化財説明標柱

わずかずつではありませんが、文化財説明標柱を設置する事業を進めています。

また、地域の文化財を散策していただけるよう文化財案内板もあわせて設置しています。現在、塩屋地区(二基)・坂越地区・有年地区(三基)の六カ所に設置しています。みなさんも是非、文化財新発見の散歩に出かけてみてください。

指定されていない文化財も、その地域の郷土を語るうえで決して欠かすことのできない貴重なものです。みなさんで大切に守り、私たちの子や孫に伝え残していきたいと思います。

しかしながら、こうした未指定の文化財のなかには地域の人たちが、古老だけが知っているもの、毎日通る道だが気が付かなかつたもの、昔はあったが今はなくなつてしまったものなど、隠れた文化財となつてしまったものがたくさんあります。

赤穂市教育委員会では、このような未指定の文化財を少しでも多くの人たちに知ってもらい、大切に守っていただくため



坂越地区文化財案内板 (坂越公民館前)

平成元年に弥生時代後期(約一、八〇〇年前)の大型墳丘墓が発見されたことで、全国的に話題を呼んだ有年原・田中遺跡がいま歴史公園としてよみがえろうとしています。

有年原・田中遺跡は、昭和六三年度の有年原地区の圃場整備事業に伴う発掘調査によって発見された遺跡であり、ここから発見された大型墳丘墓が、後の古墳時代の前方後円墳の出現を考えるうえにおいて極めて貴重なものであることから公園用地として地元住民の協力を得て赤穂市が面積約七、二五五㎡にわたって公有化を図ったもので

有年歴史公園

有年原・田中遺跡歴史公園と 東有年・沖田遺跡歴史公園

定文化財となり、平成二年三月には兵庫県指定文化財に指定されています。

公園は平成四年度から三カ年計画で着手され、平成七年の三月末に完成する予定です(総事業費約二億円)。

有年原・田中遺跡歴史公園には発見された墳丘墓二基、木棺墓六基、祭祀土坑一基が当時の



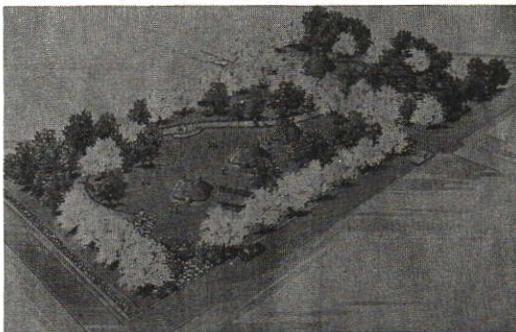
完成間近の有年原・田中遺跡歴史公園

姿に復元され、この歴史公園を通して楽しく遊びながら、弥生人の暮らしぶりや、墓造りの苦労、祭の様子を偲び、学んでいただくことができると考えています。

平成六年一〇月二七日には、原小学校の五・六年生の児童たちが、出土した葬送儀礼用の土器のレプリカ一四個を復元された二基の墳丘墓の頂上に設置し、小さな力ではありますが、歴史公園づくりに非常に大きな励ましを与えてくれました。

また、一二月からは東有年・沖田遺跡歴史公園の整備工事が、平成八年二月に完成する予定で着手されています。

東有年・沖田遺跡も有年原・



東有年・沖田遺跡歴史公園完成予定図

田中遺跡と同様に圃場整備事業に伴う発掘調査によって発見された遺跡であり、平成四年三月には兵庫県指定文化財に指定されています。遺跡からは、弥生時代(古墳時代)約一、八〇〇(一、五〇〇年前)の竪穴住居跡や、掘立柱建物跡が多数発見されており、公園にはこうした弥生時代の竪穴住居二棟・古墳時代の竪穴住居三種・高床倉庫一棟が復元される予定です(総事業費約二億円)。

こうした歴史公園がみなさんの憩いの広場として、また子供たちの学習の場として活用され、文化財とわたしたちの生活とがふれあうような環境をつくっていきたくと考えています。

文化財保護連絡員さん ご存じですか？

赤穂市教育委員会では、各地区ごとに文化財保護連絡員を任命し、文化財に関する情報の提供など文化財保護に対して幅広い活動協力をお願いしています。みなさんも文化財について気軽に相談くださり、連絡員と一緒に協力しあって文化財を大切に守っていきましょう。

教育委員会では、市民の皆さんからも文化財についての情報をお待ちしています。ご家庭で不要になったからといって民具や、家具、道具など気付かずに大切な民俗資料をゴミと一緒に捨ててしまつてはいませんか。私たちの身の周りには随分と貴重な文化財が眠っているものです。昔はこの家庭にもあったものでも現在はどうでしょう。

「そういえば最近あまり見なくなつたなあ。」その時にはもう遅いかも知れませんが、わたしたちが日頃何気なく使っていたものが、貴重な民俗資料となるのです。処分してしまう前には是非一度教育委員会(☎③68508)・民俗資料館(☎②1361)・歴史博物館(☎③4600)・地元文化財保護連絡員に、ご一報くださいますようお願いいたします。また、古い蔵や、納屋

を取り壊す際にもご連絡ください。案外と意外な文化財が眠っているものです。

みなさんの協力なしでは、大切な文化財を保護することはできません。どうぞご協力くださいますようお願いいたします。

文化財保護連絡員のみなさんです。どうぞよろしく。

- | | | |
|----|-------|-------|
| 赤穂 | 萬野 邦開 | ③1078 |
| 三谷 | 百々 | ②1666 |
| 山田 | 明憲 | ③1110 |
| 塩屋 | 岡田 順一 | ③1096 |
| 河部 | 元一 | ②2662 |
| 福浦 | 西中正次郎 | ②4310 |
| | 有吉 敦 | ③0526 |
| | 吉栖 清美 | ③0430 |
| 尾崎 | 上杉 太郎 | ③1016 |
| | 内波 義隆 | ③9204 |
| 御崎 | 西田 勝 | ②2898 |
| | 山脇 拓士 | ③1618 |
| 坂越 | 大西 孜 | ③8253 |
| | 唐崎 安也 | ③8065 |
| | 中島満寿夫 | ③7289 |
| 高雄 | 島津 勉 | ③7580 |
| | 松本 保 | ③8371 |
| 有年 | 井上 益雄 | ③2287 |
| | 中山 茂雄 | ③2168 |
| | 横山 博光 | ③2358 |
- (任期平成七年三月二日)

国の名勝 田淵氏庭園

『明遠楼』解体修理完成間近

田淵氏庭園は、昭和六二年五月に国の名勝に指定されている非常に著名な茶庭であります。

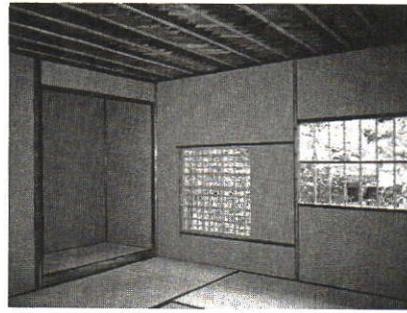
所有者である田淵家では、昭和六二年度から中段にある茶室「春陰齋」の解体修理が始められ、平成二年度には、下段にある母屋書院の庇屋根全面葺替え工事が、老朽化に伴い実施されました。また、平成三年度からは、上段にある二階造りの「明遠楼」が解体修理されており、今年度以内装の修理が完了すればいよいよ庭園の建物修理は一段落着くこととなります。

明遠楼の一階には茶室を中心に水屋などが完備され、二階へは階段のほかに地形を利用して石段を登ったところが玄関となっています。多賀城の石碑の拓



田淵氏庭園明遠楼

本を利用した襖や、猪目欄など素朴な中にも味わいがあり、縁側からは塩田跡や海景といったすばらしい景観が眺望できます。



明遠楼茶室

小さな資料館案内

埋蔵文化財調査事務所(有年公民館分館)

赤穂市教育委員会では、開発事業に伴って埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。特に有年地区からは、原始から中世に至るまでの遺跡が数多く発見されており、遺跡から出土した土器や、石器などの遺物を有年公民館の分館で展示し、無料公開しています。展示遺物の多くは有年地区の遺跡から



遺物展示室

出土したもので、弥生時代や、古墳時代の人々が当時使っていた壺・甕・高杯(たかつき)などの土器や、石斧・石鏃(石の矢じり)・石庖丁などの石器、分銅形土製品・銅鐸形土製品・ミニチュア土器・土馬(どば)といった祭祀遺物などを写真パネルと一緒に展示しています。また、有年原・田中遺跡の墳丘墓から出土した葬送儀礼用の大型の器台・壺・高杯はもとの形に復元され、当時の土器作りの技術や、その形と紋様の美しさ、弥生人たちの祈りを感じさせてくれることでしょう。このような、先祖が残していた生活用具から現在に生きる私たちはいったい何を感じ、何を学び、何を子供たちに伝えることができるのでしょうか。

事務所内では、遺物の保管以外にも、出土した土器の接合・復元などの作業を行っています。(不定期に休館することがありますので、来館前に事前に電話連絡ください。☎03691)

教育委員会

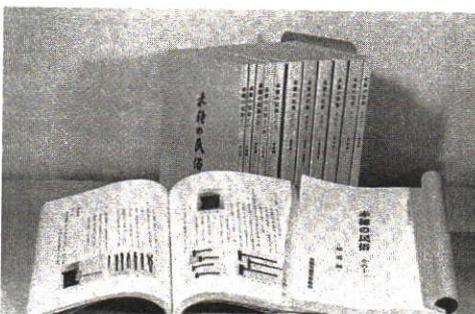
刊行図書を紹介

赤穂市教育委員会では、貴重な文化財を記録として保存するため、埋蔵文化財の発掘調査報告書や、『赤穂塩業史料集』、古老からの聞き取り調査をまとめた『赤穂の民俗』を刊行してまいりました。

埋蔵文化財は、開発によって破壊されて消滅したり、人間にもいづれ寿命が訪れます。このように、一冊の本に記録することは文化財の保存・公開といった面から極めて重要なことでもあります。みなさんのご家庭にも備えていただき、ご活用くださいますようお願いいたします。

★赤穂の民俗その一(補遺編) 一冊九〇〇円(A5判200頁)
赤穂の民俗を再調査した補遺編『赤穂の民俗』全一巻堂々完結。(バックナンバー一部あり)
★赤穂塩業史料集(全七巻)
赤穂に関連のある塩業関係史料・データを集成大成。(第一巻四、〇〇〇円・第二〜四巻四、

六〇〇円(第五〜六巻五、一〇〇円・第七巻五、六〇〇円)
★周世人相遺跡 一冊八〇〇円(B5判266頁)
県道改修事に伴う発掘調査報告書。特に弥生時代の住居跡や、土器の図・写真を満載。
★有年原・田中遺跡発掘調査報告書 一冊七〇〇円(A4判143頁)
原小学校新築工事に伴う発掘調査報告書。飛鳥・奈良時代の遺構・遺物を多数紹介。古代の役所跡と考えられている遺跡。
★有年考古館蔵品図録 一冊一、七〇〇円(A4判206頁)
松岡秀夫先生創立の有年考古館に収蔵される遺物の写真・図面をふんだんに網羅。
★有年原・田中遺跡 一冊五〇〇円(B5判20頁)
有年原・田中遺跡の全容をオールカラーでまとめた遺跡概要書。



『赤穂の民俗』全11巻

文化財ニュース

発行 赤穂市教育委員会
編集 生涯学習課文化財係
(赤穂市加里屋81番地 TEL 3-6858)

No.3

東有年・沖田遺跡公園

復元整備中!!

赤穂市街地から千種川沿いに県道を北上し、国道2号線との交差点から少し西へ走ると広がる田園風景の中になにやら風変わりな建物群が目に入ります。

これが現在復元整備中である東有年・沖田遺跡公園の竪穴住居群です。

東有年・沖田遺跡はほ場整備にともなう調査された遺跡で、縄文時代から室町時代にかけてのたくさんの遺構や遺物が見つかっています。特に弥生時代中期と後期(約2000～1800年前)、古墳時代後期(約1500～1400年前)の竪穴住居跡や墓などが密集して見つかり、また国内でも最古級の土馬(土で作った馬の模型)や、当時ムラで使われた多くの遺物が出土しました。

このことから当時この地に大きなムラが営まれていたことがわ



復元整備中の東有年・沖田遺跡公園

かりました。このように東有年・沖田遺跡は、当時の集落の様子を考えるうえで重要な遺跡であることから平成4年3月に兵庫県指定の文化財となりました。

赤穂市ではこの遺跡の一部を保存し後世に長く伝えると同時に、皆さんが太古の人々の息吹に触れ、そこから地域の歴史を学んでいただけるよう当時の竪穴住居を実際に発掘されたものをもとにして復元しているところです。



古墳時代後期の竪穴住居

竪穴住居は少し地面を掘りくぼめて土間を作り、そこに柱を立てて茅葺(かやぶき)の屋根を地面に直接突き降ろす建物です。公園はこうした復元住居を中心に当時のムラの様子を再現しています。

公園は大きく2つのゾーンに分かれます。そのひとつは「弥生時代ムラ」。ここでは当時の丸い形の竪穴住居を2軒復元します。そのうちのひとつは兵庫県でも他に類を見ないほど大きな住居です。もうひとつは「古墳時代ムラ」と名付けたゾーンで、古墳時代後期の竪穴住居4軒と掘立柱建物1軒を復元し、当時のムラの様子を体験できるようにしています。

東有年・沖田遺跡公園の完成は平成8年3月。よみがえる太古のムラに乞うご期待。

有年原・田中遺跡公園

弥生時代後期の大型墳丘墓2基と祭祀土坑1基・木棺墓6基を復元整備した有年原・田中遺跡公園が4月に開園しました。

墳丘墓の頂上には埴輪の祖形とも考えられる葬送儀礼用土器の器台と壺のレブリカが、1号墳丘墓・2号墳丘墓合わせて14セット設置されています。また6基の木棺墓群は、それぞれ穴を掘った後、木棺を設置してフタを閉め、その上に土を盛っていくという埋葬の順序に沿って再現しています。

公園は、市民の憩いの場、小中学生の教材として利用されるほか、市外からも多くの方々が見学に訪れています。皆さんも歴史の香り漂う中で、お弁当を広げてみてはいかがでしょうか。



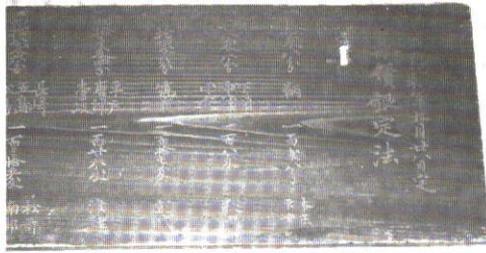
有年原・田中遺跡公園

赤穂市指定文化財 新たに6件追加

赤穂市教育委員会は、平成7年度（5月25日現在）赤穂市指定文化財として新たに6件を指定しました。

今回の指定で、市指定文化財は有形文化財9件、有形民俗文化財1件、無形文化財1件、選定保存技術4件となります。

そのほか赤穂市には国指定文化財7件、県指定文化財13件があります。

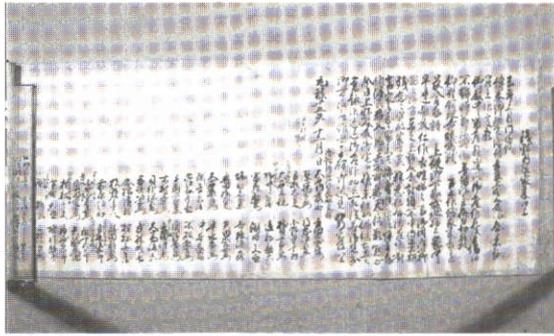


船賃銀定法

【船賃銀定法】

◆有形文化財（古文書類）

元文4年（1739）につくられた全国各地への船乗りの賃銀の書上げで、行き先の距離に応じて賃銀が定められており、全国的に注目されています。



義士墨跡

◆有形文化財（歴史資料）

「富森助右衛門筆記」

板額に朱漆書きがなされていて、あまり見られないものです。またこれに伴う大西家文書は、同家を持っていた廻船とその営業利益の状況や各地への船賃のほか、舟手条目、坂越の廻船仲間や赤穂の一般廻船のことなどが書かれています。

「義士墨跡」は、吉良邸討入りの後熊本藩に預けられた大石以下の義士から、同藩家中堀内伝右衛門が所望してもらった手蹟を貼り合わせて1巻としたものです。原惣右衛門白筆の「浅

野内匠家米口上写」、他の義士からもらった短冊・扇面・書付、原の手になる小野寺妻の和歌が収められています。

「富森助右衛門筆記」は、富森が熊本藩御預け中の元禄16年（1703）正月24日に、堀内伝右衛門の求めに応じて討入りとその翌日の行動について記した筆記で、討入りの状況を当事者が記したもののなかでは最も詳しいものです。



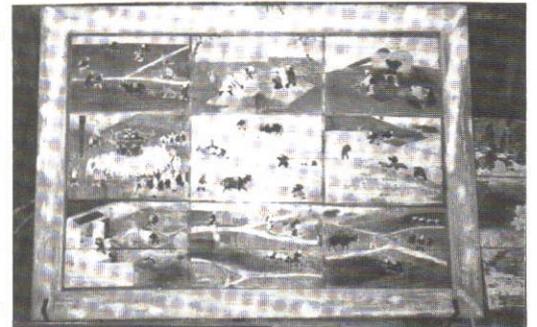
木造浅野赤穂藩主坐像

【木造浅野赤穂藩主坐像】

◆有形文化財（歴史資料）

浅野家初代より3代にいたる藩主の木造坐像です。京都の仏師系の作家の手によるもので、18世紀後半頃の作品と考えられます。

3軀ともヒノキ寄木造で、彩色が施されています。保存状態も大変良く残されています。



牟礼八幡神社農耕図絵馬

【牟礼八幡神社農耕図絵馬】

◆有形民俗文化財（信仰）

9区画に分けたなかに農作業絵8（粃播と田起し、唐箆打、唐箆かけ、田植・代播き・苗取り、肥料入れ、米の収穫・庭仕事、稲刈り、麦刈り）、祭礼絵1（祭礼の屋台）が描かれています。



三味線製作技法（目坂進さん）

当神社には明治10年代に奉納されたのですが、江戸末期の農耕の実態もしのばれ、貴重な民俗資料です。

◆選定保存技術（工芸技術）
三味線を全工程通して製作する技術を持つ人は全国でも数人しかいませんが、父子で一貫製作している目坂五郎さんと目坂進さんを三味線製作技術保持者として選定しました。目坂五郎さんは従事年数約63年、目坂進さんは約33年です。



播州箕・竹籠類編方技法（谷本拙三さん）

【播州箕・竹籠類編方技法】

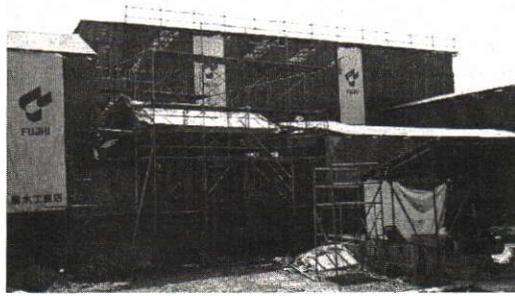
◆選定保存技術（工芸技術）

播州箕・竹籠類編方技法を持つ谷本拙三さんが選定されました。細工歴は65年で竹箕の製作を最も得意とされています。谷本さんは素材竹の見分け技法や割竹を薄く割りひごを作る引き割り技法など多数の高度な技術をお持ちです。

赤穂城跡整備工事進む

来春、本丸門・旧高校通用門閉鎖石垣完成

赤穂市では、来たる2001年築城340年に向けて、赤穂城跡の整備を進めています。



本丸門復元工事

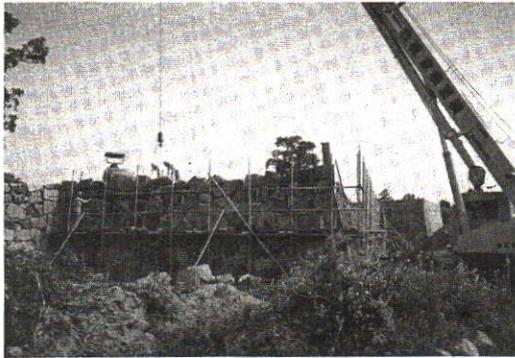
辺はハラミ(石くずれ)がありましたが、半世紀近い45年目に閉鎖され、本丸の石垣土塁が総廻りとなります。

工事は、平成5～7年度(実質2年間)にかけて修復が行なわれ、長さ上端87m、下端76m、面積約740㎡、石量1,600t、総事業費8,500万円を要しましたが、当時の城づくりは途方もない大事業であったことが想像されます。

15年目にあたる来年度は、刎橋門や庇口門の石垣修理を整備し、本丸全体が大名庭園の風格イメージをかもしだす城郭庭園になることと思います。

とりわけ、本丸跡については、昭和57年度から整備が本格的に始められ、本丸庭園に次いで来春には市民待望の本丸門と旧赤穂高等学校通用門閉鎖石垣工事が完成します。

本丸門は、実に120年振りに往時の姿によみがえり、新たな赤穂城の名所スポットとなり、憩いの場を提供してくれることでしょう。



旧高校通用門閉鎖石垣復元工事

塔印篋宝年有西

西有年宝篋印塔が赤穂市西有年塚ノ元(もと)に場所を移して平成7年3月に整備されました。国道2号線から長谷川沿いに少し西に行った右手に見られます。この宝篋印塔はもとと近くの街道脇にありましたが、平成5年



西有年宝篋印塔

3月西有年ほ場整備の際に取り払われていました。地元では「播磨鑑」に記載されている大將軍墓を、西有年字往来南にあつたこの宝篋印塔のこととしていました。この宝篋印塔は、塔身の梵字が深い薬研彫りで大変見事なものです。製作年代は鎌倉時代末期または南北朝初期と考えられます。

現存の高さは1.15mで基壇・基礎・塔身・笠・相輪のうち相輪を欠いていて、五輪塔の宝珠・受花で代用しています。

整備された場所から山裾沿いに少し南東に行った旧西国街道の脇に、この宝篋印塔と同時代の五輪塔があります。古代山陽道にかわって、中世には揖保川町の神戸から有年を通る筑紫大道が開発されました。中世の人びとも街道を通る時に、宝篋印塔

や五輪塔を見て思いを馳せたことでしょう。

道標には、「右 びぜん 左 はま道」と彫り込まれてあって、当時の備前街道の風景を忍ばせます。

ここは面積が12㎡しかない赤穂市で一番小さな公園です。その内には、設置し直した道標と、配置・彩色を凝らしたベチュニアやマリー・ゴールドなどの色とりどりの花が咲きみだれ、周りはサツキや玉ツゲなどの緑で覆われていて、地元老人会によって管理されています。

文化財は貴重な文化遺産であるだけでなく、現在に生きるわたしたちの財産でもあります。この道標を見学していただくとともに、赤穂市で一番小さな公園を楽しんでいただけたらと思います。

赤穂市で一番小さな公園 新田道標小公園完成

旧備前街道新田大津道上手、下手の分かれ道にある道標が平成7年7月に小公園として整備されました。この道標は昭和56年3月に付近の工事のため取り払われ妙典寺に預けられていましたが、昭和61年2月に元の位置近くに戻されています。



新田道標小公園

文化財を守る人々 ～高雄歴史を語る会～



高雄歴史を語る会

高雄の歴史や文化財について、会員持ち回りで講師を勤め、年10回研修会を開いて勉強しています。また高雄地区の歴史に関連するテーマを決めて、年1回研修旅行に行っています。昨年度は、「千種川流域の文化財を訪ねて」と題して佐用の石堂

高雄歴史を語る会（代表・島津勉さん）は、高雄地区の有志の皆さんによって平成3年4月に結成され、会員数は33名です。
この会は、自分たちの住んでいる高雄地区の歴史や文化財をより深く理解して、守り伝えていくことを目的に様々な活動を行っています。

家などを見学に行かれました。会では特に文化財保護に力を入れており、高雄地区の文化財の点検や独自で説明標柱を立てたり、文化財の周囲の草刈りを行うなど、熱心に活動されています。
地区の歴史を深く探求し、文化財に愛着といつくしみを持ち、「地域の歴史」を確立しようとする姿勢には強く共感を覚えます。郷土の誇りを育み高めることは大変喜ばしい限りです。

赤穂市文化財保護連絡員 第3期 発 足

赤穂市ではこのように名もなき文化財でも後世に末永く引き継ぎ、保護していきたく、市民

赤穂市教育委員会では、平成3年4月より赤穂市文化財保護連絡員を設置していますが、今回平成7年4月1日に第3期目として新たに委嘱いたしました。
連絡員の皆さんは、赤穂市内にある文化財の点検や、文化財に関する情報の提供、市内のご家庭でご利用になりました農機具や家具、道具などの民具を市へ取り次いでもらうなど文化財保護のために様々な活動をしていただいています。

赤穂市ではこのように名もなき文化財でも後世に末永く引き継ぎ、保護していきたく、市民

赤穂市教育委員会 刊行図書案内

◆赤穂塩業資料集（全7巻）

古代から現代に至るまでの赤穂に関連する塩業関係史料やデータを収録。

の皆さん一人ひとりのご協力をお願いいたします。市内各地区の文化財について、連絡員さんにお気軽にご相談していただきたいと思っています。市民の手で文化財を守っていききたいものです。

赤穂	三谷 百々	②1666
山田	明憲	③1110
萬野	邦開	③1078
塩屋	森津 庸子	③7825
赤松	光弘	③0822
岡田	順一	③1096
福浦	有吉 敦	③0526
尾崎	吉栖 清美	③0430
尾崎	上杉 太郎	③1016
御崎	梅山 知子	⑤0889
御崎	西田 勝	②2898
坂越	山脇 拓士	③1618
坂越	唐崎 安也	⑧8065
高雄	大西 孜	⑧8253
高雄	中島満寿夫	⑧7289
松本	保	⑧8371
島津	勉	⑧7580
中山	茂雄	⑨2168
横山	博光	⑨2358
池本	芳文	⑨2730

（任期平成9年3月31日）

第1巻	4,000円
第2～4巻	4,600円
第5～6巻	5,100円
第7巻	5,600円

（全巻A5判）

◆赤穂の民俗（全11巻）
赤穂の民俗調査報告書。赤穂市に伝わる風俗・慣習などを各地区ごとに収録。

◎バックナンバー残部あります。
その4ー有年編(2)900円
その7ー加里屋・上飯屋編
その8ー千種川流域編
その9ー尾崎編1,300円
その10ー福浦編1,700円
その11ー補遺編 900円
（全巻A5判）

◆周世入相遺跡
県道改修工事に伴う発掘調査報告書。弥生時代の遺構・遺物を中心に収録。
一冊800円（B5判266頁）

◆有年原・田中遺跡発掘調査報告書。
原小学校新築工事に伴う発掘調査報告書。飛鳥・藤原、奈良時代の遺構・遺物を中心に収録。
一冊700円（A4判143頁）

◆有年考古館蔵品図録
松岡秀夫先生創立の有年考古館に収蔵される考古資料の図面・写真を収録。
一冊1,700円（A4判206頁）

◆有年原・田中遺跡
有年原・田中遺跡で発見された

弥生墳丘墓と葬送儀礼用土器を中心にオールカラーでまとめた遺跡概要書。
一冊500円（B5判20頁）

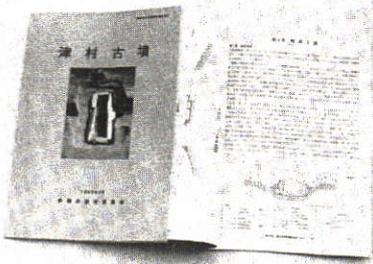
新刊案内 『津村古墳』

平成3年度に行った発掘調査の報告書です。

津村古墳は、有年原の北島集落の裏山にある直径13mの小さな円墳で、すでに盗掘されていました。石の棺と中から鉄の鎌を検出しました。赤穂市最古の古墳のひとつです。

古墳の図面や写真のほか周辺の遺跡についてもくわしく紹介しています。

内容 A4判 本文 21頁
写真図版 8頁
一冊350円



津村古墳発掘調査報告書

文化財ニュース

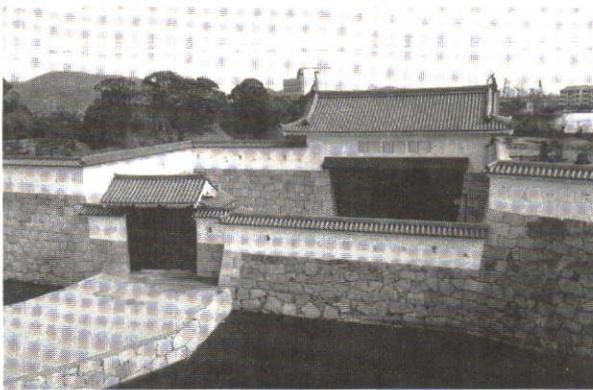
発行 赤穂市教育委員会
編集 生涯学習課文化財係
(赤穂市加里屋81番地 TEL 3-6858)

No. 4

国史跡赤穂城跡

本丸門完成!!

本丸門が、約120年ぶりに築城当時を偲ばせる雄姿に復元されました。総事業費約6億7千万円をかけて完成し、4月9日午後から無料公開となります。本丸門の復元に当たっては、古絵図をはじめとする古文書類、明治時代初期の古写真、発掘調査の結果から考察し、当時の姿を正確に再現しました。国産材(内地産)ばかりを使い、在来工法を重んじ古風豊かな古色塗りに仕上げられています。本丸門は一の門(櫓門)と二の門(高麗門)から成る多門で、広さ約330㎡の枅形を構えています。



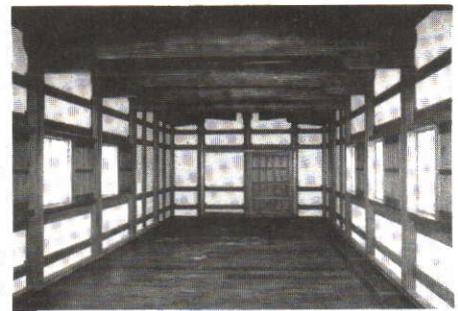
本丸門



櫓門

櫓門は木造、入り母屋造り、本瓦葺で幅約13m、高さ約11m、高麗門は木造、切妻造り、本瓦葺で幅約4m、高さ約6mです。櫓門上階内部は赤穂城関係の資料を陳列する展示室を兼ね備え、天井小屋組を眺めますと雄大な建築に触れることができま。門の大扉は、飾金具類を打ち込み一層厚みを感じさせ、鏡柱、脇柱、冠木、敷梁などの木材の大きさには圧倒されます。

また、本丸門復元に併せた中道(千橋)復元整備に先立つ発掘調査を実施した結果、これまで知られていた古絵図とはかなり異なり、本丸門から北に7m付近で



櫓門内部

大きく西側に「く」の字形に折れて二の丸側に至ることがわかりました。その護岸石垣において、浅野以前の藩主だった池田政綱の刻印を8ヶ所も発見できました。

本丸門ではイベントなどの行事がある時には、櫓門内部の特別公開を行い、門全体をライトアップいたします。現代に蘇った江戸建築は美しく照らし出され、幽玄な空間を提供するところでしよう。

本丸門完成記念行事

◇米谷朝五郎赤穂百景展

日時 4月19日(金)～21日(日)

午前9時～午後5時

場所 市民会館 大会議室

◇本丸門櫓門内部特別公開

日時 4月27日(土)

5月6日(月)

午前10時～午後4時

本丸門櫓門内部特別公開と案内説明

同時開催①赤穂城跡風景画展 ②赤穂城関連資料展

◇赤穂城跡学習会

日時 5月3日(金)午後2時

場所 市民会館 中会議室

演題 「赤穂城整備の流れ」

―赤穂城の歴史を中心にして―

講師 宮崎 素一

(赤穂市教育委員会 文化財係長)

◇赤穂城跡探訪会

日時 5月5日(日)午前10時

場所 赤穂城跡一円

集合 赤穂城跡二の丸

山鹿素行銅像前

同時開催

赤穂城跡二の丸錦帯池

発掘調査現地説明会

◇竣工記念講演会

日時 5月12日(日)午後2時

場所 文化会館 学習室

演題 「赤穂城跡復元整備

―本丸庭園・本丸門・錦帯池―

講師 鈴木 充

(国立米子工業高等専門学校 校長・広島大学名誉教授)

◇能と狂言

日時 5月15日(水)午後6時

場所 文化会館 大ホール

番組 素袍落、船弁慶外

出演者 杉浦元三郎

江崎金治郎 外

赤穂城跡

整備順調に進む

赤穂市では21世紀の幕開けとなる2001年に市制施行50周年を迎えるとともに、赤穂城築城完成340周年・赤穂刃傷事件300周年・赤穂城跡国指定30周年の節目にあたることから、赤穂城跡をシンボルとした街づくりと位置づけ、赤穂城跡復元整備事業を一大プロジェクトとして、往時の姿に復元する整備を精力的に実施しています。

本丸整備については、平成4年度から進めていた本丸門が120年ぶりに完成し、かつての運動場への通用門は約半世紀ぶりに閉鎖整備され、本丸の石垣土塁は総廻りになりました。また本丸南の刎橋門の整備工事も継続しています。



旧通用門閉鎖石垣修理

二の丸整備は、山鹿素行銅像周辺から旧赤穂高等学校運動場にかけて錦帯池の発掘調査を進めたところ、ほぼ古絵図どおりの壮大な池泉跡が確認され、近い将来二の丸庭園として蘇ることを思います。



刎橋門修理

歴史博物館の背後にある二の丸東北隅櫓台は、いよいよ本格的な復元整備が始まります。二の丸東北隅櫓台をはじめ二の丸門から清水門までの石垣土塁は、明治25年の千種川の洪水による千種川護岸決壊の災害復旧と流路変更工事のために取り払われて築石として使用されたことで、その面影が失われていました。一方、城南緑地公園のテニスコート北側にある西中門周

辺の外堀も、一部ではあります蘇りました。

このような赤穂城跡の整備は、江戸時代の城郭や庭園の風格を醸し出させ、その息吹に触れることになり、私たちの生活に活力と潤いを与えてくれるものと確信します。



二の丸外堀復元

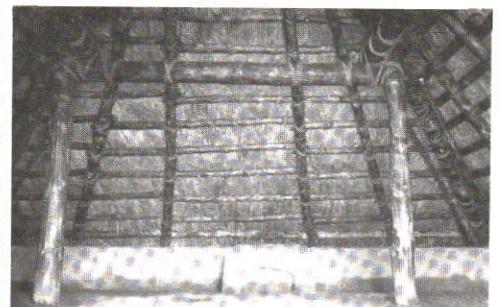
有年原・田中遺跡公園に次いで 東有年・沖田遺跡公園完成

これまで何度かお知らせしてきたように、いよいよ東有年・沖田遺跡公園がオープンします。平成6年10月から始まった整備工事もこの3月によりやく完了し、千数百年ぶりに弥生時代・古墳時代のムラが蘇ったわけですが、これで有年地区の遺跡公園は、昨年4月に一足早く開園した有年原・田中遺跡公園に次いで二

つ日となります。有年原・田中遺跡公園は、弥生時代の大型墳丘墓や木棺墓などを復元し、当時の葬送やその祭りをテーマにしたものですが、今回開園する東有年・沖田遺跡公園は、発掘された弥生・古墳時代の竪穴住居などを復元して当時のムラの様子を再現した公園です。復元された古代の建物は、弥生時代後期の2棟と、古墳時代後期の4棟です。両方の住居の違いを観察してみるのももしろいでしょう。



東有年・沖田遺跡公園



竪穴住居内部 (古墳時代)

有年地区にそろうた二つの遺跡公園をとおして、太古の人々の暮らしかや葬送の祈りを学んでみてはいかがでしょう。

なお、東有年・沖田遺跡公園の開園式は4月20日(土)です。式典は午前中に行われ、午後から一般開放(無料)となります。

また、開園記念の行事を次のように予定しておりますので皆さまお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

史跡探訪会
日 時：4月21日(日)
午前10時～12時
集 合：東有年・沖田遺跡公園
コ ー ス：東有年地区周辺

記念講演会
日 時：5月11日(土)
午後1時30分～
場 所：有年公民館研修室
講 師：石野博信(徳島文理大学教授)・上山博物館館長
演 題：「弥生と古墳の大型建物・播磨の住居とヤマト」

赤穂市指定文化財 5件指定

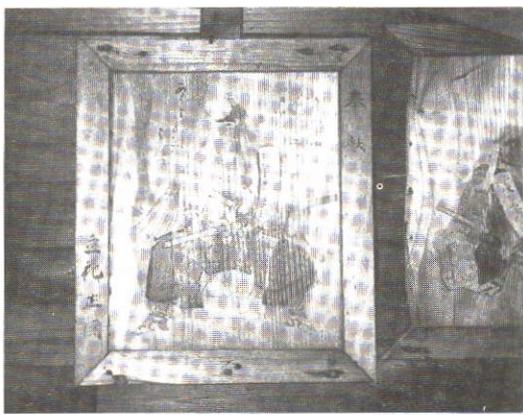
赤穂市教育委員会では、平成7年度(平成8年3月31日現在)赤穂市指定文化財として5件を指定しました。今回の指定で市指定文化財は有形文化財11件、無形民俗文化財1件、無形民俗文化財2件、史跡1件、選定保存技術4件となります。赤穂市にはそのほか、国指定文化財7件、

黒尾須賀神社義士画像図絵馬

49面及び奉納額1面

▼有形文化財(歴史資料)

幕府領であった牟礼東村の立花氏の発起で、立花林兵衛・同伊三郎・柏木与三右衛門が世話



黒尾須賀神社義士画像図絵馬

た48面が奉納されました。保存状況は良いとは言えませんが、数ある義士画像図絵馬の中でも赤穂藩領内では江戸時代唯一のもので、絵師は長安義信で、輪郭を描く減筆体の力強い墨線や、人物の個性的な容貌表現に並でない力量をうかがうこと

人となり、牟礼東村の住人が奉納者となって、嘉永2年(1849)9月に義上絵馬と奉納額が奉納されました。四十七士のうち吉田忠左衛門の絵馬が欠落しているようですが、仇討ち前に死んだ矢頭長助・萱野三平・橋本久蔵の3人が「義士一列」の者として含まれています。長年の風雨によって痛みが激しくなっていますが、義士絵馬としては旧赤穂郡内で最も古いものです。

木生谷三宝荒神社義士画像図絵馬48面(付)牽馬図絵馬1面

▼有形文化財(歴史資料)

慶応元年(1865)9月に木生谷及び周辺の在住者によって、四十七士に萱野三平を加え

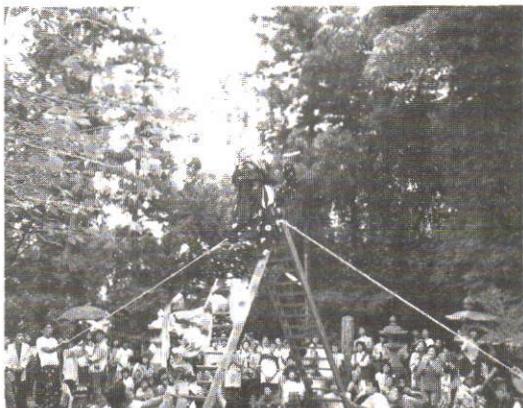


木生谷三宝荒神社義士画像図絵馬

鳥撫荒神社獅子舞

▼無形民俗文化財(民俗芸能)

獅子舞は、千種川周辺の村々の16種類の獅子舞が集まったもので、それぞれの舞は可憐、優



鳥撫荒神社獅子舞

ができ、歴史資料・美術史資料として非常に価値の高いものです。



赤穂八幡宮獅子舞

雅、軽快、曲芸、勇壮、狂乱、滑稽などに分けられ、捻りの技法を加えて独特の舞い方を工夫された貴重な民俗芸能です。

赤穂八幡宮獅子舞

(付)獅子頭2面

▼無形民俗文化財(民俗芸能)

獅子頭の形は平たくて、周辺

に多く見られる伊勢系ではなく、中国・四国系の獅子頭に若干似た権現頭系で非常に数が少ないものです。獅子は大鼓のみで、余技的な神楽舞よりも道中舞が優れています。神幸道中は獅子舞の権限が大きく、鼻高が道中舞の先導として非常に重厚な舞を演じていて、見る者に迫力・重圧感を与え、神がかり的な真剣味を伝えます。



尾崎・大塚古墳

尾崎・大塚古墳1基(付)出土遺物12点及び『字大塚古墳調査書類綴』史跡

(遺物包含地等の遺跡) 向山の南にのびる尾根上にあり、古墳時代後期(約1450年前)に築造されたものです。市の南部に残されていた、唯一の両袖の横穴式石室をもつ古墳であり、出土遺物や発掘調査記録と共に極めて貴重な文化財です。現在墳丘は著しく崩れていますが、当時としては珍しい明治41年(1908)の発掘調査記録には、「周囲二十七間、墳丘の高さ「一丈三尺」と書いてあり、また略測図から円墳であったと思われる。

赤穂市文化財保護連絡員 新たに3名増員

赤穂市教育委員会では、平成8年4月1日から新たに3名の文化財保護連絡員を委嘱しました。

これまでの福浦地区の2名に折方の沖照幸さんを迎え、新たに西部地区として活動していただきます。また高雄地区に木津の大黒正昭さん、有年地区に有年原の竹平慎一さんを迎え、より一層充実した活動をしていただきます。

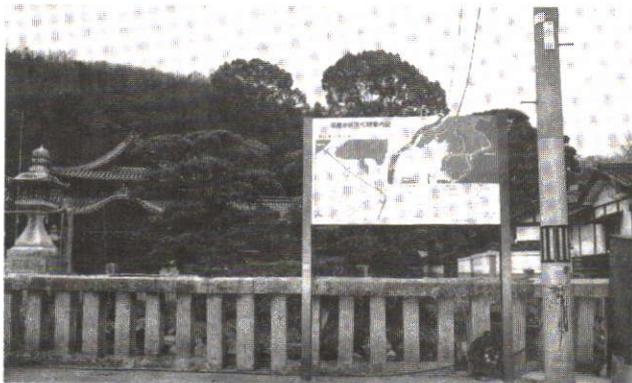
市内の文化財に関する情報の提供や現況の点検・報告などをしていただいたり、市民の皆さんからの色々な情報を取り次いでもらうなど、様々な活動をしていただいています。活動もいよいよ充実し、これまでの人員では対応しきれなくなってきたため、この度増員する次第となりました。今後も市民の皆さんの財産である文化財を共に守り伝えていきましょう。

- | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 西部 | 赤松 | 岡田 | 森津 | 山田 | 塩屋 | 城西 | 赤穂 | 有年 | 高雄 | 坂越 | 御崎 | 尾崎 | 吉栖 |
| 沖 | 光弘 | 順一 | 庸子 | 明憲 | 唐子 | 三谷 | 邦開 | 茂雄 | 保 | 安也 | 拓十 | 知子 | 清美 |
| 照幸 | ③0822 | ③1096 | ③7825 | ③1110 | ③7825 | ②1666 | ③1078 | ②2730 | ⑧8371 | ⑧8065 | ③1618 | ③1016 | ③0430 |
| | ③2078 | | | | | | | ⑧7580 | ⑧8253 | ②2898 | ⑤0889 | ③0526 | |

尾崎地区に 文化財案内板を設置

はじめ市内8ヶ所に設置したこととなります。赤穂市

赤穂市教育委員会では、尾崎地区に文化財案内板を設置しました。赤穂八幡宮の境内に入った右手に立っています。尾崎地区の31ヶ所の文化財について、その名称と所在する場所がわかるようになっています。これで市内の文化財案内板は、有年地区周辺を



尾崎地区文化財案内板

内には規模の大小、時期の新旧、有形や無形に限らず様々な文化財がありますが、「ちよつと文化財を見に行こうか」と思われなくても「場所がわからない」ことがあったのではないのでしょうか。その際の便宜を図る意味からも、教育委員会では今後も市内各所に文化財案内板を設置していきたいと考えています。

また市内に点在する文化財のすぐ近くに「郷土の文化遺産を未来へ」との文章とともに文化財の説明が書かれた標柱が立っているのをご覧になられた方も多いのではないのでしょうか。標柱を見かけられた折には、しばらく立ち止まって文化財を見学していただけたらと思います。

貴重な木製遺物を展示公開中

赤穂市埋蔵文化財調査事務所

有年中学校の東にあります有年公民館分館（赤穂市埋蔵文化財調査事務所）で、有年地区から出土した貴重な木製品を展示しています。発掘調査によって出土した木製品は、その保管のため水に漬けておかねばならず、展示することが困難でありましたが、今回保存処理を行いました。公開展示することといたしました。

展示しています木製品は、有年原・田中遺跡から出土した弥生時代（約1800年前）の柱部材、平安時代（約900年前）の呪符木簡、西有年・長根遺跡から出土した室町時代（約600年前）の木摺臼の3点です。弥生時代の柱部材は、佐賀県吉野ヶ里遺跡の楼閣復元のモデルとなったものです。呪符木簡は、流行病を防ぐための厄除札で、比較的古く、完形品に近いことから新聞紙上で大きく取り上げられました。また木摺臼は、粳すり用の臼で、現存するわが国最古のものであります。

限された好条件のもとで残された数少ない木製品は、私たち日本人の本当の生活文化を語ってくれるに違いありません。

有年公民館分館は午前9時から午後4時30分まで開館していますが、土、日曜日、祝日は閉館日となっています。入館無料。



木製遺物展示

お詫びと訂正

文化財ニュースNo3の新田道標小公園記事中に「右 びぜん 左 はま道」とあるのを
右 びぜん
左 はま道

道として訂正させていただきます。ともに、お詫び申し上げます。

文化財ニュース

発行 赤穂市教育委員会
編集 生涯学習課文化財係
(赤穂市加里屋81番地 TEL 3-6858)

No. 5

木津・段ノ上遺跡

発掘調査終了

教育委員会では、木津地区のほ場整備に伴い、平成5年度から発掘調査を実施してきました。平成7、8年度にわたる段ノ上地区の調査の結果、弥生時代中期末・後期及び鎌倉時代・室町時代の遺構や遺物が見つかりました。特に鎌倉時代の掘立柱建物跡のほか、石組井戸跡や石槨墓・土壙墓跡なども見つかり、当時の集落の様子を知ることができた貴重な成果となりました。

木津・段ノ上で人びとが暮らしはじめたのは弥生時代、今から約2000年前にさかのぼることが、今回の調査でわかりました。「秦河勝」が舟をつけて以来、木津の土地の開拓がはじまったと伝承がありますが、それより600年前の弥生時代に掘立柱建物をつくり生活を営んでいました。掘立柱建物の中から壺・甕・鉢・鉢・高杯などの弥生土器や石斧が出土しています。



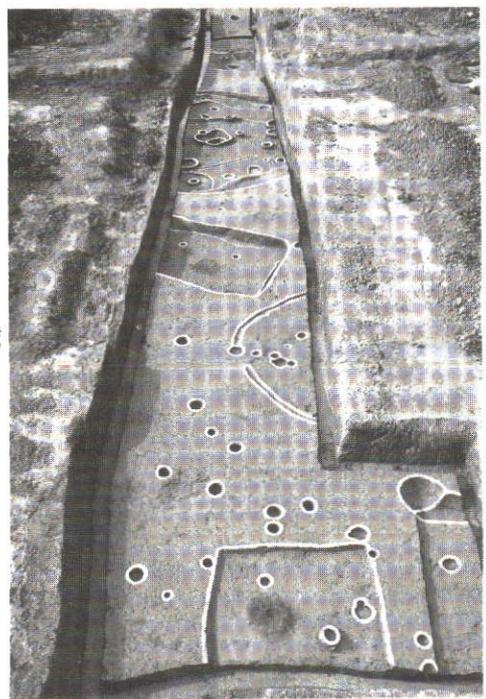
鎌倉時代の掘立柱建物跡など

鎌倉時代には2間×5間の総柱建物(約80㎡)の主屋を中心とし、大小さまざまな掘立柱建物が建ち並んでいたことがわかりました。主屋のほかは1間×2間の建物が多く見られ、主人の館と下人の小屋や倉庫ではなかったかと思われま

す。柱穴跡や溝跡の中から、土鍋・羽釜・鉢・皿などの土器、鉢・碗・甕・壺などの須恵器のほか、これまで赤穂市内の発掘調査では質・量ともに見られないほどの碗・皿・壺などの中国製の青磁や白磁が出土しています。当時、瀬戸内海は海上交通に利用されており、中国との貿易



鎌倉時代の遺物出土状況



弥生時代の掘立柱建物跡

も盛んに行われていました。遠く海を渡ってもたらされた青磁や白磁を多量に使用していた鎌倉時代の木津・段ノ上の人びとは、かなり裕福な暮らしをしていたのではないのでしょうか。

赤穂城跡整備

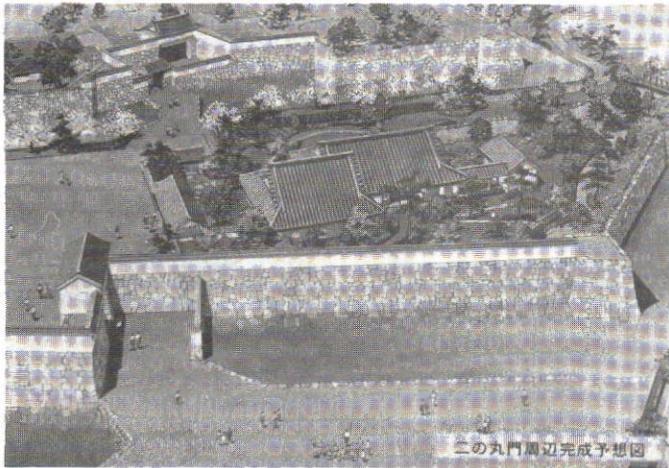
基本計画を策定

市は、赤穂城跡の保存・整備・活用を総合的、計画的に進めるため、赤穂城跡整備の基本計画書を作りました。21世紀の幕あけとなる2001年は、市制施行50周年、築城完成30周年、赤穂刃傷事件30周年、また城跡が都市公園の計画決定から50年、国の史跡指定から30年と記念すべき年です。

赤穂城跡は、歴史的・文化的価値も非常に高く、市のシンボルとしてふさわしいものにするため、将来を見通した整備のあ

り方を検討したものです。城跡を単に観光資源としてとらえるのではなく、城跡のもたらす有形無形の恩恵を広く市民の皆さんに受けられるようなまちづくりを目指したものです。

計画は、史跡を活用した市民が誇れる場所づくり（義士のまちのシンボルづくり）を整備方針にかかげ、城郭史跡としての保全・整備、史跡の活用、史跡周辺整備の3本柱に整備ゾーン、景観計画、植栽計画、景観計画、管理運営計画などです。



この丸門周辺完成予想図

整備スケジュールとして、2001年までを短期、2011年までを中期、2012年以降を長期と位置づけ、短期では本丸、二の丸のほぼ全域と三の丸の大手門櫓形（大石神社地の一部を公有化）の整備を、中・長期では主な城の建物を復元します。

また、本丸と二の丸を『復元・活用ゾーン』とし、三の丸は『学習・体験ゾーン』として、積極的に活用を図る予定となっています。

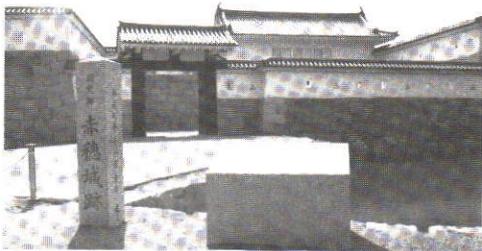
赤穂城跡整備進む

赤穂城跡は、2001年に築城完成340年（市制50周年）を迎えるにあたって、「赤穂城跡をシンボルとしたまちづくり」を推進し、義士のまちの核となるよう城跡を活用した市民が誇れる場所（新たな文化・社会活動）づくりを図るため、現在積極的に復元整備を進めています。

昨年春には、市民の待望であった本丸門が往時の雄姿でよみがえり、来園者が本丸まで足を運ぶようになり活気づいています。本丸跡では、平成3年度からはじめて、身障者や高齢者のためのスロープ、手すりの設置、案内説明板の増設と厩口門・厩口門木橋の復元のため、

よりよく形づくため、御殿屋形間取りの改修、本丸門・御殿間取りの案内説明板、本丸跡の石標柱などの設置を行い本丸のPRに努めています。

そのほか、二の丸跡では昨年度より工事をしている外堀復元は、護岸石垣修理とあわせ

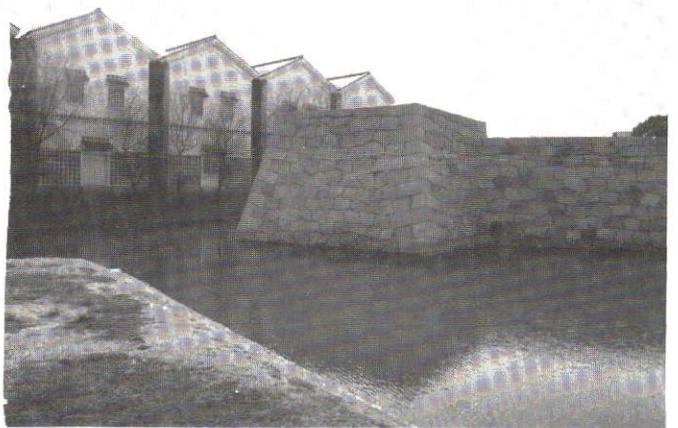


本丸門石標柱・案内説明板

来年度整備として、本丸跡では厩口門石垣修理の完成をめざし、身障者や高齢者のためのスロープ、手すりの設置、案内説明板の増設と厩口門・厩口門木橋の復元のための実施設計をする予定です。本丸外では、旧運動場に残っていた本丸外堀跡を掘削し、堀の復元と護岸石垣の修理を行います。水手

厩口門・厩口木橋 実施設計開始

ほぼ全体の姿があらわれ、徐々ではありますが江戸時代の面影もどおり、私達に水辺空間を提供してくれています。歴史博物館の背後にある東北隅櫓台も、明治25年の千種川災害復旧の築石として使用され取り壊されて以来、104年ぶりに再現され、10箇所あった赤穂城の隅櫓台がすべてそろったこととなります。



二の丸東北隅櫓台

門周辺（城南緑地運動場の中島付近）では、船着き場の石垣復元をし、藩庁船着き場の再現を行います。また、長年の念願であった大手門櫓形復元をはじめに、あたって、大石神社地の一部を今後公有化する予定です。

本丸外堀全容 よみがえる

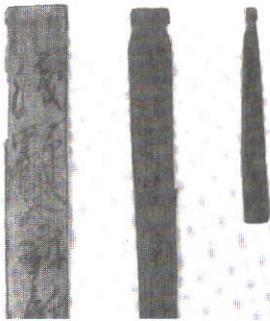
このように、本丸外堀は全周水をたたえた昔の姿にもどおり、城の生命線ともいえる縄張りにより実感でき、大手門櫓形復元や厩口門・木橋など城郭の建造物復元は、本丸門と同様に私達に城の形や息吹きを体感させてくれることでしょう。

赤穂城本丸跡出土木簡 保存処理

発掘調査によって出土した遺物のうち、木製遺物など有機質のものは掘り出されてから何らかの処置を講じなければその形を保つことはできません。応急処置として水漬けの方法がありますが、これではせっかくの貴重な資料を展示・公開することが困難です。

こうした出土遺物を永久に保存し、皆さんに見ていただけるように毎年少しづつですが化学的な保存処理を行っています。

今回は赤穂城本丸跡から出土した木簡を中心に54点の木製遺物を処理しました。これらの木簡は荷札などとして使用されたもので、赤穂藩主をはじめ歴史上著名な人物の名が書かれたものも含まれています。これら貴重な木製品は本丸門特別公開などの機会に展示する予定です。



保存処理後の木簡

平成8年度 赤穂城跡発掘調査

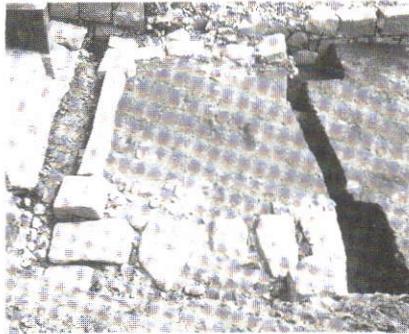
赤穂城は貴重な近世城郭遺構であり、復元整備は慎重かつ史実に基づいたものでなくてはなりません。このため赤穂市教育委員会では整備に先立ってその都度発掘調査を実施しています。平成8年度も城内各所で5件の発掘調査を行い、それぞれ貴重な成果がありました。

二の丸東北隅櫓台周辺城壁調査

櫓台周辺の二の丸土塁は現在土を削られており、櫓台と石垣土塁復元に先立ち痕跡調査を行いました。この結果、土塁の掘部分が比較的よく残っており、当時の城壁の厚さが明らかになりました。整備はこの調査成果をもとに設計されました。

本丸厩口門発掘調査

厩口門はかつて赤穂高校の通門であったため、コンクリートに覆われていました。この門



本丸厩口門跡

を復元整備するため、門周辺を発掘したところ、門の鏡柱の礎石などが極めて良好な状態で見つかりました。礎石の位置などから本丸門や大手門の二の門と同じ高麗門であったことが明らかになりました。この調査成果を踏まえて、これから門は往時の姿に復元されます。

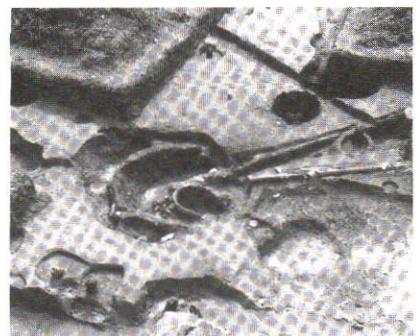
三の丸大手門枿形周辺の調査

大手門枿形復元に向けて、枿形周辺の道路・屋敷割りを調査しました。調査の結果、当時の道路側溝や旧上水道の石組み導水管などが見つかりました。これにより、大手門周辺の侍屋敷や道の位置を決定することができました。

二の丸外堀・三の丸侍屋敷調査

二の丸北隅櫓台周辺の堀とその護岸の復元に先立って発掘調査を行いました。堀護岸はほぼ絵図どおり良好な状態で残っていましたので、これをもとに復元整備を行います。また堀の中に絵図にも描かれている柵状の杭列も見つかりました。

三の丸の侍屋敷跡では旧上水道の給水管や汲上枿などの遺構が多数見つかったほか、池跡・土坑などの遺構から多量の陶磁器類や木製品が出土し、当時の生活の一端をうかがわせる貴重な資料となりました。



三の丸侍屋敷跡の上水道遺構

本丸外堀・二の丸の調査

平成9年度に行う予定の堀と護岸の復元に先立って発掘調査を行いました。調査の結果、堀護岸と二の丸仕切り石垣などが見つかりました。特に二の丸仕切りは堀の中ほどまで突出しており、城の防御のために予想以上に入念な構造であったことがわかりました。このほか二の丸内で新たな池らしき遺構も見つかり、今後の調査が期待されます。



二の丸仕切りの石垣

赤穂城

インフォメーション

●本丸櫓門階上特別公開

日時 4月26日(土)～29日(火)
5月3日(土)～5日(月)
午前10時～午後4時
無料

内容

本丸櫓門内部の特別公開と案内説明
櫓門内部において、絵図・古写真などの赤穂城関連資料のほか、本丸から出土した木簡や平成8年度の赤穂城跡発掘調査成果の企画展示を行う予定です。
本丸庭園の案内説明

●本丸門復元整備

ビデオの貸し出し
赤穂市教育委員会では復元された本丸門の復元の様子をわかりやすく記録したビデオの貸し出しを行っています。

内容 VHS方式

所要時間約25分
貸出方法 市役所3階の教育委員会生涯学習課文化財係にて直接貸出・返却する。無料。

貸出期間 1回につき1週間

遺跡公園体験学習会

土器づくりに挑戦!

昨年の夏休みに、東有年・沖田遺跡公園で小学生10名とおかあさんたちが、古代の土器づくりに挑戦しました。講師の小谷五郎さん（姫路市在住の古代土器陶芸家）の土器づくりを注意深く観察していた子供たちでしたが、いざ自分で作るとなるとなかなか難しいようで約2時間の格闘の末、ようやく立派な作品ができあがりました。遺跡公園に復元された薄暗い竪穴住居のなかで、かわいい弥生人たちは当時の人々の暮しぶりや、苦勞を体験し、楽しく貴重な一時を過ごせたことでしょう。



土器づくり

教育委員会では、文化財に親しみをもってもらうと、平成9年度もこうした体験学習会を開催する予定です。多くの方々のご参加をお待ちしています。

赤穂緞通織方技法講習会

バツタン、バツタン、チヨキチヨキ「糸は切れる役、わたしや繫ぐ役、機のお師匠さん、おこる役」と、賑やかに郷土の産業として栄えていた赤穂緞通も、その後継者の不在からすっかり寂しくなっていました。

教育委員会では後継者育成のため平成3年度より赤穂緞通織方技法講習会をはじめ、今年度第2期生である14名の講習生が新たに参加され、赤穂緞通織方技法選定保存技術保持者である阪口キリエさんのプロとしての厳しい指導のもと、懸命な技術指導が続けられています。講習会も半年が過ぎましたが、講習生たちの意気込みは止どまることを知りません。どうか皆さんも応援してあげてください。



赤穂緞通織方技法講習会

赤穂市指定文化財

3 件 指 定

真殿村検地帳12冊

（付）真殿村方文書一括
▼有形文化財（古文書類）

真殿自治会に残された12冊の検地帳は宇喜多時代から浅野時代のもので、領主の領民支配の推移をたどりうる資料として極めて貴重なものであり、播磨地方においてはこれ以外に知られていません。

特に文禄3年（1594）は、備前・美作2国と備中数郡、播磨2郡（赤穂・佐用）にまたがった宇喜多秀家領に残る、現存唯一の宇喜多氏の村検地帳であり、播磨一國（16郡）に残る太閤検地帳としても、他に1冊あるだけの数少ない資料であります。



真殿村検地帳



伝大石良雄仮寓地跡

伝大石良雄仮寓地跡

▼史跡（その他）
伝大石良雄仮寓地跡は、俗称「おせど」と呼ばれ多くの人々に親しまれているところです。

当時この地は良雄の家扶であった妹尾孫左衛門の兄元屋八十右衛門の屋敷があり、元禄15年の刃傷事件によって赤穂城明け渡しとなったときに、良雄とその家族がここに仮住いしたと伝えられ、尾崎から加里屋の遠林寺まで通って残務処理の仕事にあたったことが書状に書き残されています。現在では瓢箪池や、良雄が奉ったとされる稲荷社、赤穂城にあったとされる馬石・牛石などが残されています。

妙見寺観音堂 1棟

▼有形文化財（建造物）

観音堂は、万治2年（1665）に妙見寺の奥の院として宝珠山上に建立されましたが、後に大破したため享保7年（1722）に現在地に再建されたものであります。建物は、約7m四方の本瓦葺きで、山の斜面に持たれかけるよう造られた懸造り形式の構造になっており、昭和55年には老朽化のため、一部修復されています。こうした懸造りの建物は、近世寺社のなかでは全国的にも例が少なく、坂越湾の絶景が望めるようになっています。



妙見寺観音堂

編集後記

今回の文化財ニュースは、見開き2ページが赤穂城跡特集となりました。次回以後は写真を大きくするなど、より読みやすい紙面を、と考えています。

文化財ニュース

発行 赤穂市教育委員会
編集 生涯学習課文化財係
(赤穂市加里屋81番地 TEL 3-6858)

No. 6

赤穂城跡の本丸外堀 往時の姿にのみがえる

赤穂城跡の外堀は、廃城後に埋められ、長く田畑として利用されてきました。赤穂城跡が都市公園となり、国の史跡に指定されてからは、外堀は徐々に復元され、築城当時の姿に戻りつつあります。近年の整備では、二の丸西側の外堀が、平成7年度から復元されています。

本丸の外堀は、南西部が兵庫県立赤穂高等学校のグラウンドとして利用されていたため、埋められたままの状態でした。平成6年度の発掘調査によって、外堀の護岸石垣が地下に残っていることが明らかとなり、平成8年度にはその全面発掘調査が実施されました。その結果、護岸石垣がほぼ完全な形で残っており、護岸石垣の石材が花崗岩ではなく流紋石を使用していることや、二の丸の北と南を区切るための仕切りの石垣が堀内

部まで張り出していること、外堀の南西部に外堀の水を引き込むための小さな池泉のようなものがあるといった新しい発見があいつぐ

ことになりました。そして、平成9年度には本丸外堀の埋まっていた部分が掘削され、本丸は外堀によって囲まれ、築城当時の姿を取り戻しました。しかしながら、本丸外堀の護岸石垣は傷みが激しいため平成9年度から順次積替え工事が着手されることとなり、まず初めに本丸北西部の護岸石垣が積替えられました。外堀は、城にとって重要な防備施設であると同時に、美しい水辺空間として赤穂城を訪れたみなさんの心を和ませることができるでしょう。



よみがえった本丸外堀

本丸の環境整備進む

すでにご存じのとおり、来年度のNHK大河ドラマは『元禄緋恋』と題して赤穂義士を題材にしたものと決まりました。久しぶりに大河ドラマに登場する赤穂ですが、今年・来年とますますの観光客が見込まれると見込まれています。特に赤穂義士のシンボルとも言える赤穂城跡にはブームも追い風となっており、多くの方々が訪れることでしょう。

現在赤穂城跡では、本丸の整備が一段落し、主な整備は二の丸へと移っています。しかし本丸も整備後10数年経過しており、福祉社会に適合してより見学者への利便性を高めるために改良の必要な部分も出てきたため、年々少しづつ手を加えています。

厩口門は3年計画で門周辺の石垣修理を継続しており、今後は高麗門形式の門建築、擬宝珠と欄干を備えた木橋、石垣上の土塀の復元を予定しています。

本丸内の施設では、車椅子の利用者や高齢者が気楽に安心して見学できるように、平成9～10年度の2カ年をかけて施設の改良工事を進めています。御殿間取

り上へあがるためのスロープの設置、園路の段差の解消、砂利敷きから透水性の自然素材を使った舗装への変更、階段への手すり設置などを行っています。文化財であるため、やむを得ない部分もありますが、バリアフリーの史跡を目指して努めていきたいと思えます。これまで赤穂城のライトアップスポットとしては、大手隅櫓が有名でしたが、このたび本丸門にもライトアップ設備を増設しました。この本丸門ライトアップは観月会や義士祭などのイベント時や春・秋の連休に開催する本丸櫓門内部特別公開期間などの機会に行っています。漆黒の闇に浮かび上がる白亜の本丸門は、昼間以上に美しく孤高の姿です。機会をとらえてぜひご覧ください。



修理が進む厩口門周辺の石垣

平成9年度

赤穂城跡発掘調査速報

二の丸で遊水池跡 見つかる

平成8年度の発掘調査で見つかった赤穂城跡本丸外堀の南西部にある石積みの小さな池泉の全貌を明らかにするため、平成9年度にその池泉跡周辺の全面発掘調査が実施されました。調査地は、古絵図を見ても何も描かれていない場所であり、何が見つかるか期待されるなか発掘調査は進められました。その結果、石積みの小さな池泉の北側に南北約80m、東西約50mを測る「S」字形の大きな素掘りの池と、その池の水を排水する



二の丸後郭で見つかった池泉跡

ための石積みの水路跡、またその池の水量を調節するための水門跡が見つかりました。

この池は、本丸外堀の水を調整するための遊水池であり、本丸外堀の水を一口この池に引き込み、水量を調節しながら水路を通して城外に排出するための施設であったと考えられます。水路は二の丸の土塁の下を通っており、城南緑地公園側から石垣を見るとトンネルの様な排水口が現在も見られ、水はそこから城外(当時は海であった)に排出されていたようです。本丸外堀の水源のほとんどは、赤穂旧上水道の水であったと思われませんが、どんどん溜まる外堀の水をどうやって排水していたかは謎に包まれたままでした。しかし、今回の発掘調査によって本丸外堀の排水経路が明らかになると同時に、この遊水池が赤穂旧上水道の末端施設として貴重な発見となりました。二の丸の遊水池が発見された周辺は、将来お花見広場として整備される予定ですが、この遊水池が復元されることによって、赤穂城と旧上水道の学習にも役立ち、水辺空間のある自然味あふれた公園となることでしょう。

水手門と船着場

二の丸水手門跡とその周辺の復元に先立って発掘調査を行ったところ、水手門の鏡柱・控柱礎石が往時の原位置に残されていることが分かりました。また門の周辺には船着場と波よけの突堤が見つかりました。

門の東前面の水辺に突き出る形で階段のように石組みされた遺構が見つかり、3段残っていた平均をとって積み上げると計9段で門の高さに合いますので、当時は階段として積み上げられていたと考えられます。水手門が城の最南にあり海や川に面していたこと、周辺の石垣が城内側に大きく入り込んでいる水燃の縄張で船が出入りしていたことが考えられますので、階段状の遺構が船着場であると思われ



水手門跡周辺発掘調査全景



船着場

波よけの突堤は、船着場の約1.4m南から東に向かって、水燃でできた水辺の空間に突き出る形で見つかりました。長さ約18m、幅約5.3mを測り、一番底に基礎として敷かれた根石が残っていました。江戸時代に描かれた絵図には突堤が描き込まれていないものが多くその存在が考えられていましたが、調査の結果明らかになりました。高さは、底の部分しか残っていません。そのため明らかではありませんが、当時の水位から考えると1m以上は必要であったと思われます。今回の調査では、その他「本丸水抜き樋」を設置したと考えられる痕跡が門の中央を東西に横切る形で見つかりました。今後復元される船着場と突堤は海岸平城としての赤穂城を思い浮かべることでしょう。

近藤源八宅跡長屋門の整備に向けて

近藤源八正憲は、赤穂城を設計した近藤三郎左衛門正純の子で、父のあとを継いで甲州流軍学を修めて浅野家の軍師として家臣教育に勤めました。その屋敷は大手門枅形の裏手にあり、間口33間、奥行31間もの広さを誇ったと伝えられています。現在はその長屋門の北半分が崩壊して残されているにすぎませんが、大石宅跡長屋門と並んで赤穂城内に残された貴重な江戸時代の建造物です。赤穂城の玄関口とも言うべき大手門を入ってすぐの道路両側に並ぶこれらの長屋門は、藩の重臣の風格を表した威風堂々としたものであったことでしょう。

しかし長年の老朽化によって雨漏りが激しくなったため、今は素屋根で覆われて見学できない状態です。この貴重な建造物を後世に保存し活用していくため、平成10年度には復元整備のための調査・設計を行うこととしております。建物を解体して古部材の痕跡調査を行ったり、建物基礎の発掘調査を実施することによって、建築当初の建物の様子が明らかになることが期待されます。



本丸での研修会の様子

文化財ボランティア育成研修事業

「郷土のことについてボランティアで案内したいが、十分な知識がない。」と悔しがっている方がけっこう多いことを聞き、ボランティア活動のきっかけづくりとして文化財ボランティア育成研修講習会を実施しました。平成9年8月3日に説明会を行い、最終的に36名の受講生が坂越地区・有年地区・赤穂城跡・赤穂城下町跡の文化財についての現地講習を熱心に受け、平成10年度からいよいよ本格的に活動を始めることとなりました。住みよいまちづくりの役立てばと皆さん張り切っています。どうか応援してあげてください。

有年地区の遺跡公園で

体験学習会開催

有年地区にある有年原・田中遺跡公園と東有年・沖田遺跡公園を利用して、古代の生活や野外での遊びに親しむことを目的に、小学生を対象にして合計4回の体験学習会を開催しました。



火起こしに挑戦中!

夏休みには土器作りと火起こしの2回の体験学習会を行いました。東有年・沖田遺跡公園の竪穴住居の中で古代人さながら粘土をこねて土器作りを行いました。土器は一ヶ月間乾燥させた後に、有年原・田中遺跡公園で窯を造って焼き上げました。土器焼きの火は「まいぎり法」と呼ばれる方法で起こした火を使うことにしましたが、子供達は火を起こすのに悪戦苦闘、昔の人々の苦勞を身をもって体験したようでした。

冬には年末にしめ飾り作りを体験しました。扱い慣れないワラを相手に格闘すること2時間、地元老人会有志の方々の実演と個別指導(手助け?)もあって、曲がりなりにもしめ飾りを完成させました。このように年間4回の体験学習会を開催することができ、多くの子供達が遺跡公園で古代体験に挑戦しました。何でも便利で不自由のない現在、先人たちの暮らしぶりや苦勞を体験することをとおして、今一度私たちの生活を見直すことができたのではないのでしょうか。次に掲げる作文は土器作りと火起こし体験に参加した小学生による参加記です。

土器を作って

坂越小学校三年 白神 弘毅

ぼくは、夏休みに土器やきをしました。七月二十日に沖田いせき公園に行きました。たてあな住居の中はとてもすずしかった。おじさんの説明をきいてねんどでそこを作って、ねんどのひもをのせていきました。ひもをのせていってると形がくずれてきて、なんどもやっただけできませんでした。お母さんは、土器をいっばいつくりました。さいごまでのこって貝のさらをつくった。どれい(土鈴)がつくりたかったけど、きよくできませんでした。三時間かけてたつたのひとつしか作れませんでした。学校のねんどはたのしいけど、土器作りは、ぼくにとてもむずかしいけんでした。たてあな住居で一月もかんそうさせます。台風がきたから家がわらでできているのでしんぱいでした。

八月二十三日に田中いせきにきました。とてもあつい日でした。まるたをしかくにくんで、だんだん小さな木をのせていきました。わらをのせてその上にみんながつくった土器を落ちないようにのせました。そのつぎに火おこしをしました。上下に動く道具で火をおこそうとしたけど、しんがちびていたので、なかなかうまくいきません。それで土器をやくかまにどろをぬりました。体じゅうどろだらけになりました。どろ山になりました。風のむきにあわせてあなをあげ火をつけました。竹で空気をくっつけていました。それでさいごに火おこしをもう一回やりました。姉もやりました。けむりがでてきたので、ぼくはうれしくて、

「あ、けむりがでてきた。」

とさげびました。黒いこなはでませんでした。火をおこすのはとてもたいへんです。まる一日やきます。そして一日たつて、とりにいきました。ねんどとは思えないほどかたまっていました。ぼくのはわれていませんでした。ほっとしました。そのあと土器をもってしゃしんをとりました。ぼくは帰り、なににかおうか考えました。ぼくはお父さんのはいざらにすることにしました。よろこんでくれるかな。

おじさんたちにいろいろおせわになりました。

文化財ニュース

発行 赤穂市教育委員会
編集 生涯学習課文化財係
(赤穂市加甲屋81番地 TEL 43-6858)

No. 7

近藤源八宅跡長屋門解体復原完了

源八長屋は、長屋門の一部ではありませんが、赤穂城内に残された数少ない(大石良雄宅跡長屋門と一例のみ)極めて貴重な江戸期の建造物であることから、平成10年4月27日に「近藤源八宅跡長屋門」として赤穂市指定文化財に指定されました。

長屋門は、昭和60年に赤穂市の所有となり、赤穂市教育委員会ではその保存を図ってきました。しかし老朽化による雨漏り等の損壊が著しく、市指定文化

財に指定されたことを契機に復原整備を実施することとなりました。復原整備のための解体工事は、平成10年5月に着手し、同時に復原設計の基となる建物古材に残された痕跡調査を行いました。

復原整備に伴い発掘調査及び解体調査を行ったところ、現在残されている長屋門は近藤源八時代のものではなく、森家時代になってから建て替えられた長屋門であることがわかりまし



近藤源八宅跡長屋門外観

た。しかしながら、基礎部分は近藤源八時代のものを利用しており、近藤源八時代の長屋門とほぼ同規模であったと考えられます。建物東側の発掘調査では、石組暗渠・石組便槽・土累法尻の腰巻石垣などが発見されました。また残された長屋部分の古材に墨書された柱番号から長屋門は18間の長さであることが明らかになり、当時は大石良雄宅跡長屋門よりも立派な門構えで

あったことがうかがえます。

長屋門の長屋部分は下級武士たちの住居となっており、北端の一戸とその隣の二戸の北端の一部(7畳間)が現在残されています。北端の二戸は8畳間、板間8畳、板間2畳、土間2畳、板間2畳といった部屋からなり、8畳間の東には縁と使所が設けられています。また、出入り口のある台所上間の壁の上部にはかまどの煙出しが残されており、天井部の煤けた様子から当時の生活ぶりがしのべられ、部屋の天井には、竹で組まれた割り竹野地の美しい姿が残されています。建物南には旧上水道の汲出枘が残されており、旧柴田旅館にありました井戸枘を移設して整備しています。

長屋門内部には発掘調査及び解体調査によって得られた関連資料を展示する予定です。

長屋門の東には管理棟を設置し、赤穂城跡の案内施設・ポランテアガイドの詰所として活用していきたいと考えています。

将来は長屋門のすべてを復原し、赤穂城跡の総合案内施設・便益施設として活用する計画であり、大石良雄宅跡長屋門と並び表玄関である大手門周辺の景観は江戸時代の姿を取り戻すこととしましょう。当時の姿を取り戻した源八長屋を是非一度訪ねてください。

平成10年度 市指定文化財

平成10年4月27日に近藤源八宅跡長屋門(建造物)、檜原村文書及び檜原自治会文書(歴史資料)の2件が市文化財に指定されました。

檜原村文書は近世・近代にわたる文書2139点、檜原自治会文書は、近現代の文書319点からなり、計2458点を数える市内最多の村文書です。

檜原村文書は、単に檜原一村の歴史を伝えるだけでなく、森赤穂藩が出した領域支配のための藩法・触書が年次を追って書き写されており、藩の行政、経済政策の推移を詳細に体系的にとらえることができる文書としてたいへん貴重なものです。文書は所有者である有年考古館・有年檜原自治会の寄託を受け、現在赤穂市教育委員会が保管管理しています。



檜原村文書

元禄繚乱にわく赤穂城跡

— 整備急ピッチ、観光客も激増 —

赤穂城跡は、現在NHK大河ドラマ「元禄繚乱」の放映にあわせて、あこう展示館がオープンしたため一気に活気つき、近年にない賑わいを見せています。

こうした現状に対し赤穂市は、赤穂城が来るべき2001年に築城完成340年、赤穂刃傷事件300年、市制施行50年、国史跡指定30年を迎えるに

あたり世紀の幕開けを担うべく、『赤穂城跡をシンボルとしたまちづくり』をめざした整備を推進しています。

まず、整備の指針となる計画では、赤穂城跡整備の基本計画、基本設計の策定を終え、個々の工事が施工できる実施設計に着手しています。発掘調査をはじめ古文献などの調査結果に基づき考察を行い、本丸では既口門の門と橋、二の丸では米蔵跡に休憩所を含む便益施設的设计を完了しました。



既口門石垣

そして前頁の近藤源八宅跡長屋門復原整備は、21世紀への贈り物として、先に完成した本丸門と同様、視覚的に城郭建造物が体現できるものになりました。

次いで、整備として本丸では、昭和56年の赤穂高等学校が東浜塩田跡に移転して以来、本格的な整備を開始し、昨年の刎橋門跡石垣修理完了後、唯一残されていた既口門跡の石垣修理も終えることができ、本丸の3門は以前とは一変し、往時のように城らしくなりました。

また、利便性を高め、より快適に活用できるよう、本丸庭園の説明板・照明灯・ライトアップの増設を行い、加えて高齢者や障害者の安全で快適な利用を

図るためスロープの設置（3箇所）、階段には手すりを設け（3箇所）園路は砂利敷きから透水性の自然色素材を使用した舗装などの改良を実施しました。

二の丸では、全国でも珍しい大名庭園である錦帯池の全面発掘調査の実施により、甲州流軍学の海岸平城に似合う池泉庭園が検出されつつあります。発掘調査地を囲うフェンス沿いには、調査中の錦帯池の整備復原予想パースを描いた看板を設置し、調査への理解を求めるとともに、赤穂

城への再訪問を期待しています。

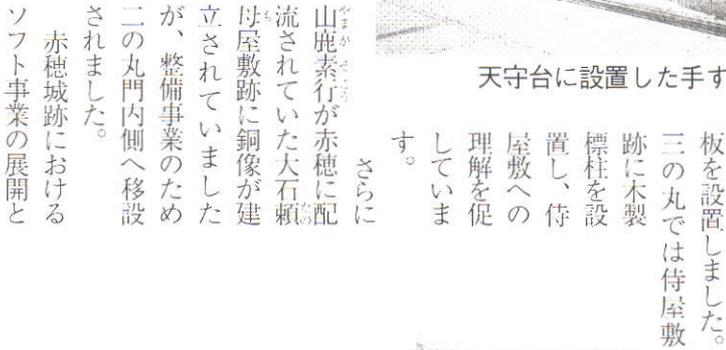


本丸御殿屋形に設置したスロープ

池を取り込んだ自然公園（エコパーク）、芝・桜を主とした花見広場を造成中です。近い将来には、南の水手門に橋を架け城南緑地公園からのルートを確保する計画です。これにより、市民憩いの場となる城内と体力づくりの場である城南緑地が一体化し、私たちの日常生活に潤いを与えてくれることでしょう。

二の丸・三の丸では、探訪者への城郭の理解と興味を図るため、城郭遺構の説明板・標柱を設置しました。二の丸門跡には

花崗岩の台座に、古写真・説明文を焼き付けた陶板の説明板を設置しました。三の丸では侍屋敷跡に木製標柱を設置し、侍屋敷への理解を促しています。



天守台に設置した手すり

さらに山鹿素行が赤穂に配流されていた大石頼母屋敷跡に銅像が建立されています。二の丸内側へ移設されました。赤穂城跡におけるソフト事業の展開と

しては、観月会「てくてく赤穂」・本丸櫓門公開などのイベント行事や大河ドラマのロケ隊城を紹介してくれています。これらのイベント行事や撮影現場に参加するだけでなく、大河ドラマが始まるとともに観光客が急増している中、市民有志による観光ボランティアガイド活動も活発化し、城跡だけでなく赤穂市の文化・歴史・風土に対する理解を深めていただいています。城跡を活用した新たな文化・社会活動の拠点づくりも行われつつあります。



大河ドラマのロケ風景

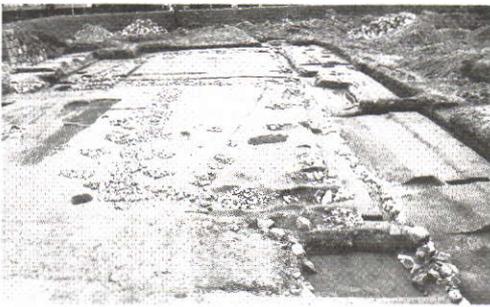
埋蔵文化財調査

現在赤穂市教育委員会で行っている発掘調査は、大きく二つの理由によります。一つは工事により破壊される遺跡を事前に調査し、後世に記録を残すためです。もう一つは、赤穂城跡などの史跡整備のため、その基礎資料とするためです。

今年度もそれぞれの調査において重要な成果がありました。

◆赤穂城跡二の丸米蔵発掘調査

二の丸整備に伴い、米蔵跡の発掘調査を行ったところ、米蔵の基礎や本丸堀からの排水溝などの遺構が見つかりました。古絵図や古文書などではこの部分に3棟の米蔵があったことがわかっていますが、今回検出できたのは1棟分のみです。遺構や



赤穂城跡二の丸米蔵跡

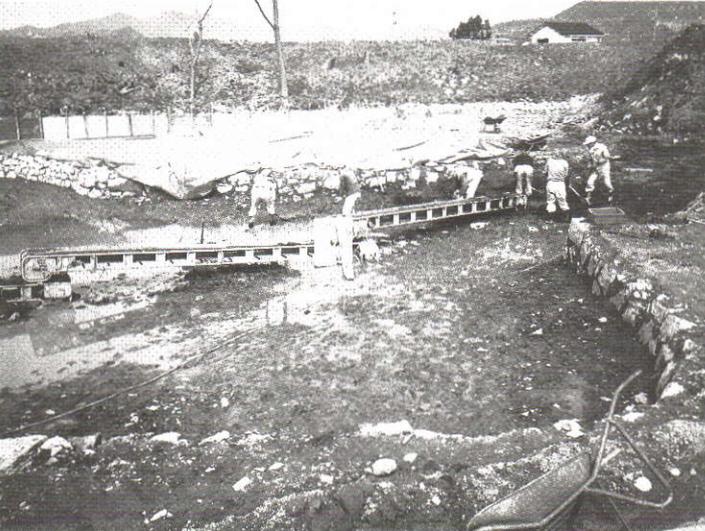
文献から推定できる蔵の大きさは梁間3間、桁行17間の長大なものです。今後これらの検出遺構に基づいて米蔵をイメージした休憩所の整備が計画されています。

◆赤穂城跡錦帯池発掘調査開始

二の丸整備に伴い、10月から二の丸にあつた錦帯池及び大石頼母屋敷跡の全面発掘調査が始まりました。

錦帯池は赤穂城の二の丸北西部に存在した大規模な池泉で、古絵図によ

れば東は大石頼母屋敷の裏手からはじまり、西仕切にまで及ぶ瓢箪形をした雄大な池であつたと推定されています。調査が進むにつれ、大石頼母屋敷跡からは土堀基礎石垣や建物礎石、旧上水道遺



赤穂城跡二の丸錦帯池の発掘調査風景

構などが、錦帯池部分では古絵図とほぼ一致するような大規模な池泉が姿を現し始めています。池は護岸石や石垣を配し、底には玉石・砂利・板石を敷くなどかなり凝った造形を見せています。また池中に造られていた大小の中島なども検出されつつあります。調査は平成11年度も引き続き実施し、錦帯池全体を明らかにする予定です。よみがえる大名庭園にご期待ください。



赤穂城下町跡の旧上水道汲出枅

◆赤穂城下町跡発掘調査

市道赤穂駅前大石神社線の街路整備に伴い、城下町の町家部分の発掘調査を実施しました。屋敷地内の建物遺構はあまり残っていませんでしたが、道路から屋敷地内へ引き込まれた旧上水道の遺構がよく残っており、町家の上水の利用を考えると、貴重な成果となりました。

◆医王山駿行寺跡発掘調査

森林総合整備事業に伴い、発掘調査を実施しました。小面積の調査でしたが、中世の掘立柱建物跡が見つかっています。

◆有年駅周辺遺跡確認調査

昨年度に引き続き、遺跡の有無、遺跡の広がり、その時代、内容を明らかにするため、所々に試験掘りを行って地下の状況を確認する調査を行いました。

このような地道な調査によって、遺跡の広がりや土地の成り立ちなど、さまざまな情報を得ることができます。

文化財施設の整備・充実

田淵氏庭園（国指定名勝）では、昭和63年度から茶室「春陰齋」の解体復原整備、茶亭「明遠楼」の解体復原整備などをはじめ年次的に順次進めてきましたが、昨年度から防災施設整備に着手し、自動火災報知設備、防火水槽、消火ポンプ、放水銃（2基）の設置工事がこのほど終了しました。文化財を火災から守ることは、文化財所有者の責務であり、方が一に備え最善の対策を講じておくことが不可欠です。

東有年・沖田遺跡公園（県指定史跡）では、古墳時代の竪穴住居内（2棟）の排水不良のため、その改良工事を実施し、大雨後や梅雨時でも冠水がなくなり、快適な見学が可能になりました。

伝大石良雄仮寓地跡（おせどV市指定史跡）では、大河ドラマの原作でも紹介され、最近多くの方が訪れるようになりまし。敷地内の剪定、井戸蓋の新調、藤棚の取り替え、車止めの設置など、義士関連史跡としてふさわしい整備を行いました。

赤穂城跡整備委員会

赤穂市教育委員会では、国史跡赤穂城跡の整備を推進するため、昭和58年度から赤穂城跡整備委員会を設置しています。

その職務は、市長の要請に応じて、赤穂城跡の整備計画と保存活用に関して、調査審議し、専門的立場から意見や助言を述べていただくためです。委員は、文化財(史跡)、公園整備、都市計画等に関し、広く高い見識をもち卓越した人で編成されています。

- 中村 一 京都大学名誉教授
 - 鈴木 充 米子工業高等専門学校長
 - 狩野 久 岡山大学教授
 - 牛川喜幸 長岡造形大学教授
 - 五味盛重 (財)文化財建造物保存技術協会参与
 - 高瀬要一 奈良国立文化財研究所計測修景室長
- (任期 平成11年6月30日)

赤穂市文化財保護審議会委員委嘱

教育委員会では、市指定文化財候補物件を調査・審議するため、審議会委員5名、専門委員1名委嘱し、会長に廣山堯道氏、会長代行に磯博氏が選任されました。

- 会長 廣山堯道(歴史民俗)
 - 副会長 磯 博(美術工芸)
 - 委員 高見申久(生物)
 - 委員 河原隆彦(考古)
 - 委員 西畑俊昭(歴史)
 - 委員 檀上重光(歴史民俗)
- (任期 平成12年10月31日)

身近な文化財の指導者 赤穂市文化財保護連絡員のご紹介

このように眠ってしまった埋もれてしまう地域文化財を、市民の皆さんの意識や協力で守り通していきましょう。どうか文化財に対する愛護精神をひろめていただき、郷土愛を育てて

教育委員会では、市内に存在する文化財を保護し後世に継承していくため、各地区ごとに文化財保護連絡員を委嘱しました。文化財に関する情報の提供など文化財の保存・活用に対して幅広い活動と協力をお願いをします。

くださるようお願いいたします。

文化財保護連絡員の皆さんです。どうぞよろしく。

赤穂	青山秀夫	42	0159
城西	三谷百々	42	1666
塩屋	山田明憲	43	1110
塩屋	森津庸子	43	7825
西部	岡田順一	43	1096
西部	赤松光弘	43	0822
尾崎	吉栖清美	43	2078
尾崎	有吉 敦	43	0526
御崎	上杉太郎	43	1016
御崎	梅山智子	45	0889
坂越	山脇拓士	43	1618
坂越	西田 勝	42	2898
高雄	照峰清熙	48	7439
高雄	大西 孜	48	8253
有年	倉橋貞夫	48	8063
有年	松原光義	48	0540
有年	松本 保	48	8371
有年	大黒正昭	48	8254
有年	中山茂雄	49	2168
有年	池本芳文	49	2730
有年	竹平慎一	49	2184
有年	横山博光	49	2358

(任期 平成13年3月31日)

文化財図書のご案内

赤穂市には貴重な文化財が多数残っています。これらを記録し、保存活用するため、1冊の

本にまとめたものです。市民の皆さんのご家庭にお備えいただき、地域学習・歴史研究にお役立てください。

◆赤穂の鳥居と狛犬(新刊)

1冊1000円(A4判85頁)

赤穂の石造物調査報告の第1集として刊行したもので、写真160点を主に平易な文章で紹介したもので、地図も掲載され一人て訪ねられるようになっていきます。

◆周世・入相遺跡発掘調査報告書

1冊400円(A4判28頁)

宅地開発に伴う発掘調査報告書。弥生時代の土坑・建物跡。

◆東有年・沖田遺跡発掘調査報告書

1冊1200円(A4判95頁)

弥生時代中期の遺物・遺構の紹介。

◆津村古墳

1冊350円(A4判29頁)

赤穂市最古の古墳のひとつ。図面や写真のほか周辺の遺跡の紹介。

◆周世入相遺跡

1冊800円(B5判266頁)

県道改修工事に伴う発掘調査報告書。弥生時代の遺構・遺物を中心に収録紹介。

◆有年原・田中遺跡発掘調査報告書

1冊700円(A4判143頁)

原小学校新築工事に伴う発掘調査報告書。飛鳥・奈良時代の遺構・遺物を多数紹介。古代の役所跡の可能性がある遺跡。

◆有年考古館蔵品図録

1冊1700円(A4判206頁)

有年考古館に収蔵されている考古資料を網羅し、豊富な図面・写真で紹介。

◆有年原・田中遺跡

1冊500円(B5判20頁)

弥生時代後期の大型墳・土器や器台・壺などの主な遺構・遺物をオールカラーでビジュアルで紹介。

◆赤穂の民俗(全11巻)

赤穂の民俗調査の報告書。赤穂市の各地に伝わる風俗・慣習などを各地区ごとに収録。バックナンバーは次のとおり。

その4	有年編②	900円
その7	加里屋・上飯屋編	
その8	千種川流域編	1200円
その9	尾崎編	1300円
その10	福浦編	1700円
その11	補遺編	900円

編集後記

赤穂城の記事が全体の約半分を占めました。「元祿騒乱」でにぎわう赤穂城ですが、将来を見つめ、着実に整備が進んでいます。

文化財ニュース

発行 赤穂市教育委員会
編集 生涯学習課文化財係
(赤穂市加里屋81番地 TEL43-6858)

No. 8

本丸堀護岸石垣の修理と 芻橋門橋台の復元

平成10年度に引き続き、既口門南から芻橋門周辺までの本丸護岸石垣を修復しました。

堀護岸の石垣は長い年月の間に抜き取られたり、崩落したりかなり痛みがひどく、水没や自然崩壊が心配されてきました。

特に本丸芻橋門対岸付近では、明治以降埋め立てられて田畑となっていたため、護岸自体埋没しており、古絵図に描かれているような橋台も現状ではその痕跡すらうかがえないような状況でした。

整備工事に伴う発掘調査によって、既口門南東の東仕切部分では、仕切石垣が堀に突出する部分が検出されました。突出した石垣は基底部で幅7.8mで、最大4.5m堀側に突出しています。さらにこの石垣を境に堀幅も変わっており、城の防衛上の仕切によって既口門側からの見通しを遮るような軍学上の工夫がなされています。

これら護岸石垣と仕切・橋台などの修理と復元整備は、発掘によって検出した石積みの積み直しを行うとともに、欠落部分を復元して城郭遺構の保全を図り、来訪者が往時の姿を体感できるようにするものと期待されます。



修理・復元された本丸堀護岸と芻橋門橋台

赤穂城跡二の丸 錦帯池跡発掘調査速報

赤穂市教育委員会では赤穂城跡二の丸整備に伴い、平成10年度から大石頼母屋敷跡及び錦帯池跡の全面発掘調査を実施しています。調査もいよいよ終盤にさしかかり、錦帯池と二の丸西仕切の全容が明らかになりました。

錦帯池は江戸期の古絵図にも描かれており、調査によって大石頼母屋敷の南側から西仕切に及ぶ瓢箪形の雄大な池泉の全貌が現れてきました。

山鹿素行が書いた『年譜』の中に、素行が大石頼母や藩主らと「錦帯池」に舟を浮かべて遊興したという記述があり、橋を架けたと考えられる階段状の石組や、舟の乗り降りに使われた化粧石が見つかっています。また、池の中には大小2つの中島があり、護岸の汀線には石積みが施されていました。

大石頼母屋敷の南側にあった錦帯池の東端部は幾度か改修されており、当初は池底に



発掘された錦帯池

玉石や、板石を敷き詰め、護岸汀線には約1m大の自然石などを配し、鑑賞を意識した造りとなっていました。錦帯池の東端部からは旧上水道の給水管が3カ所にわたって発見され、池泉の水源が赤穂旧上水道によるものと判明しました。千種川からの清水によって常に水の流れている池泉となるように工夫されていたことがわかります。

錦帯池の南端部では二の丸を南北に仕切る鍵状に折れ曲がった西仕切の石垣と門跡がみつかりました。この西仕切の石垣は、その南側にある池と錦帯池とに挟まれ、水面上に浮かぶような姿であったことがわかりました。

全容が明らかになった「大名庭園錦帯池」は、平成14年から復元を始める予定です。

21世紀の幕開けに向け

赤穂城跡整備の促進

来たるべき平成13年は、市制施行50周年と併せて、赤穂城跡では築城完成300周年、元禄赤穂事件300周年、国史跡指定30周年など記念すべき年を迎えることとなり、「赤穂城跡をシンボルとしたまちづくり」を口指して、21世紀の幕開けにふさわしい城跡整備を進めることになっています。また、平成12年は20世紀の最後の年（ミレニアム）であり、城跡整備を20世紀から21世紀への大きな贈り物と位置づけ、精力的に推進しています。

厩口門、厩口橋を 往時の姿に（本丸）

赤穂城の心臓部といえる本丸跡の整備もほぼ完成間近かとなり、本丸庭園の総仕上げの整備として、平成8、10年度に進めていた厩口門や厩口門橋台の石垣修理も終わり、いよいよ厩口門の復元に着手します。

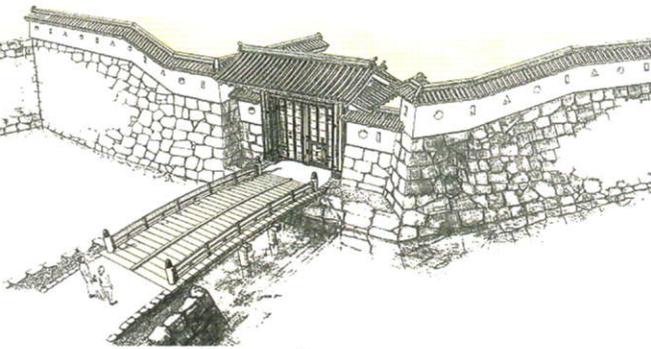
整備は、厩口門、木橋、上堀の復元を行うもので、門は本丸門や大手門と同じ高麗門の形をとり、木造、切妻造りの本瓦葺です。橋は、木格的な木橋を架け、中央がやや反りあがった太鼓橋の形です。また、門の両側には本瓦葺の漆喰塀を造り、門の内外では自然真砂土舗装を施した周辺整備も行い、視覚的に城郭構造物が体感できるように なります。

花見広場の整備（二の丸） ——憩いの場づくり——

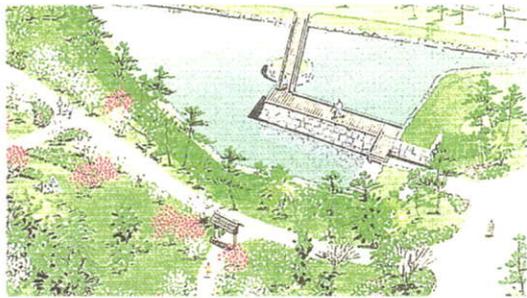
花見広場では、水手門内側に完成した米蔵風の休憩舎、中央には遊水池

のエコパークの親水公園、その両端には芝生広場・桜の広場として、市民の方々

に親しまれる身近な都市公園を目指します。現在発掘調査を進めている錦帯池は、花見広場の北に接し、大名



厩口門復元予想図



水手門船着場復元予想図

庭園の造形や規模を備えたもので、本丸外堀や、遊水池と一体連続となった水辺空間を充分連想させてくれます。

水手門船着場を再現 （二の丸）

水手門跡石垣修理をはじめとする水手門船着場復元は、門跡の発掘調査、門外の発掘調査において、船着場や波止場（突堤）が見つかり、赤穂城が海城であったことを証明してくれました。

平成10年2月の船着場の石段雁木の整備に続き、平成12年度は波止場や門跡の石垣完成を予定しています。翌平成13年度には城南緑地からバリアフリーを施した進入デッキなどの整備により、水手門一帯が海岸平城を偲ぶことが

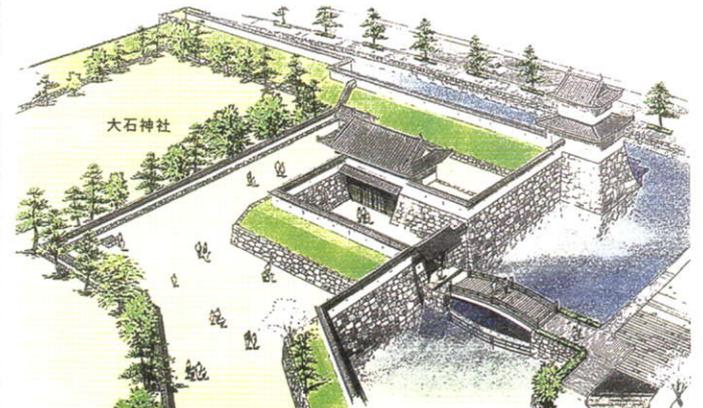
でき、城郭景観が高められます。船着場再現は、市民の憩いの場となる城内の花見広場と体力づくりの場である城南緑地を一体化させ、市民のスポーツ・レクリエーションに活用されることが期待されます。

赤穂城の顔づくり 大手門枡形復元 （三の丸）

赤穂城の顔である大手門枡形予定地を大石神社の協力のもとに公有化し、長年の念願であった大手門枡形石垣復元を開始します。大手門枡形は、赤穂城の表

玄関口で「五八の枡形」と称される赤穂城最大の枡形であり、既に再建されている高麗門、太鼓橋の城郭遺構と一体となり、視覚的にも目鼻がつき体現できるものです。

以上、市では平成12年度に、赤穂城跡を史跡・都市公園整備事業として、本丸に厩口門復元整備、二の丸には花見広場整備、水手門船着場復元整備、三の丸には大手門枡形石垣復



大手門枡形石垣復元予想図

元整備を計画しています。赤穂城跡整備は、人々に感動を与え、たびたび訪れていたただけのよう新しい赤穂の魅力づくりに取り組んでいます。歴史・文化を直に感じ、親しむことのできる場所提供を行い、歴史と伝統ある赤穂市の素晴らしさを全国に発信し、まちの新しい個性を次の世代へ継承していきます。全国的にも近世の城として、稀に見る城全体が残る赤穂城跡を整備促進することは、山城下町と連携したまちづくりに弾みがつき、市民が誇りを持てるまちづくりに向け、将来を見通した城跡整備を着実に進めていきたいと考えています。

平成11年度新指定文化財の紹介

平成11年11月22日に建造物として光明寺・石造宝篋印塔、光明寺・石造題目笠塔婆、西有年向山・石造五輪塔の3件、歴史資料として周世神護寺・三十六歌仙絵扁額が、平成12年3月30日に、建造物として西有年・石造宝篋印塔、歴史資料として赤穂東浜信用購買利用組合文書、古文書類として原村文書、選定保存技術（工芸技術）保持者として宮大工の技術保持者和田貞一さん（69）がそれぞれ指定文化財となりました。

これでは赤穂市の指定文化財は28件、選定保存技術保持者5件7人となりました。

◆光明寺・石造宝篋印塔

東有年の黒沢山山頂にあり、花崗岩製の石塔で、供養塔であったと思われる。相輪部分を欠



光明寺・宝篋印塔

損しているほかは、全体によく残っており、その高さは96・2cmを測ります。この宝篋印塔で注目されるのは、基礎部に銘文が見られることで、この銘文によって造立年代が建武2年（1335）であることが明らかです。建武2年は南北朝初期の年号で、宝篋印塔では兵庫県下でも5番目の古さです。

◆光明寺・石造題目笠塔婆

この石塔も光明寺にあり、本来は供養塔であったと思われる。花崗岩製の塔身と基礎部のみが残存しているにすぎませんが、塔身の背面に康永4年（1345）の記年銘があり、南北朝前期の造立であることがわかっていきます。この年代から題目笠塔婆では現在のところ兵庫県下で8番目の古さとされています。

◆西有年向山・石造五輪塔

西有年向山の山麓、旧国道沿いにある五輪塔で、花崗岩製の全高177cmを測る大形の五輪塔です。地輪・水輪・火輪・風輪・空輪ともにすべてそろっており、各輪に大ぶりの梵字を葉研彫りに刻んでいます。残念ながら造立年代を示す銘文はありませんが、その形や手法からみて鎌倉時代末期から南北朝時代初期の頃に造られたと推定されます。この石塔も墓石ではなく、供養塔あるいは往来者の安全を願って建てられたものと思われます。



西有年・五輪塔

造立時期の古さ、規模の大きさからみても西播磨地方では一級品といえます。

◆神護寺・三十六歌仙絵扁額

寛文6年（1666）に初代赤穂浅野藩主浅野長直によって周世の神護寺に奉納された6枚の扁額です。一枚の扁額に6名の歌仙を描き、3枚づつ左方と右方にわかれて左右相対する歌合せ形式をとっています。歌仙の絵は板面に金箔を貼りつめたうえに、濃彩で個性豊かに描かれており、藩主の奉納物にふさわしい豪華なものです。



神護寺・三十六歌仙絵扁額

◆西有年・石造宝篋印塔

かつては旧国道沿いにはありましたが、現在は約300m東に移築されています。花崗岩製で、相輪を失っていますが、その他はほぼそろっており、その高さは103cmです。紀年銘はありませんが、形態や塔身の月輪内に刻まれた梵字の手法から南北朝時代中期後半頃の造立年代が推定されます。



西有年・宝篋印塔

◆赤穂東浜信用購買利用組合文書

古代から続いた東浜の製塩は、近世初頭に入浜塩田法となり、明治38年（1905）には専売制度が発足します。赤穂東浜信用購買利用組合は専売制度下で大正13年（1924）に成立し、昭和47年（1972）の解散まで存続しました。この文書は、組合成立から解散までの半世紀に及ぶ東浜の記録で、日本の製塩業における激動と産業革命を如実に示す貴重な記録です。加えて塩業のみでなく、尾崎・御崎の生活の実態や社会動向をも伝える点においても重要なものといえます。

◆原村文書

この文書は有年の原付の村方文書で、寛永2年（1625）以降昭和初年までの史料です。特に江戸時代を通じての土地台帳が保存されていること、水運関連の記録や幕府領下の村政の実態など貴重な記録が多く含まれています。赤穂藩領（天領）の村方文書である橋原村文書（市指定文化財）との比較により、支配の差による村落の実態を考察できる貴重なものです。

◆宮大工の技術（和田貞一氏）

宮大工は、社寺専門の大工として、あるいは城郭建物などの文化財を特殊な工具と工法を駆使して伝統的建築を行います。和田貞一さんはこのような伝統的工法や工具を体系的に受け継いでおり、高度な技術でこれまでに多数の社寺建築や文化財建物の修復を手がけています。



宮大工の技術（和田貞一氏）

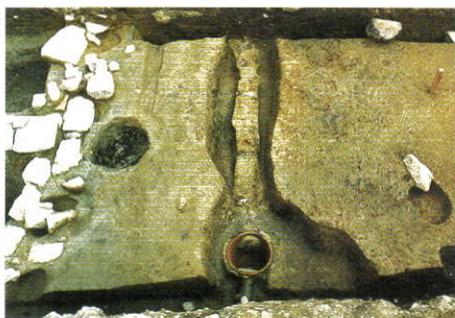
城下町跡発掘情報

都市計画道路赤穂駅前大石神社線整備工事に伴って城下町跡の発掘調査を実施しています。

今回の調査では、『赤穂城下町絵図』（花岳寺所蔵）に描かれた通り町筋と二丁目筋の町境を示す境界溝や、町屋の建物礎石、竹管、瓦管、備前焼管、素焼管といったさまざまな旧上水道管が見つかっています。

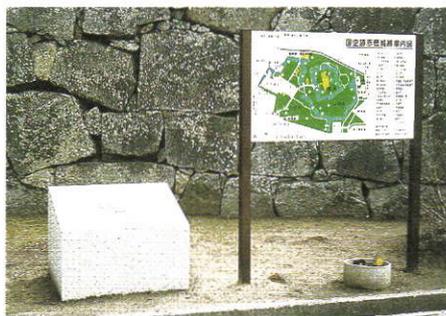
建物礎石は、古絵図に記された「源四郎かしや」、

「次（治）左衛門」、「好清」の屋敷建物と考えられます。出土遺物には伊万里焼、唐津焼、備前焼等の陶磁器や、灯明皿、焙烙といった土器のほかに、寛永通宝などの貨幣、刀子、キセル、砥石があり、当時の町民の生活の一端を垣間見ることができ、貴重な成果となりました。



発掘された城下町

赤穂城跡ぶらぶら散歩



塩屋門の説明陶板

皆さんは最近赤穂城跡にお越しになったことがありますか。赤穂城跡は赤穂高校があった頃とは随分と様変わりしています。赤穂城内は発掘調査と整備事業が進み、年々築城当時の姿を取り戻しつつあります。また、城内にお住まいの方々のご協力を得、公有化された部分もかなり広範囲になってきました。

教育委員会では公有化を図った区域に板塀を設け、併せて説明陶板や、説明標柱、侍屋敷跡には説明看板を設置しています。赤穂城内を散策できるパンフレットとして『文化財をたずねて』も発刊しています。『文化財をたずねて』は、発刊ごとに各戸配布しておりますが、教育委員会にも常備しています。赤穂市のシンボルである赤穂城の変

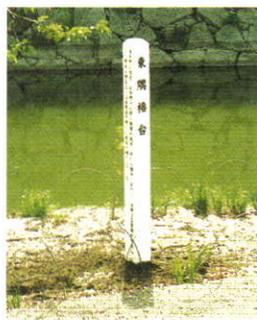
わり行く姿を一度ゆっくりと探訪してみたいかがでしょうか。もうすっかり春ですね。たまには赤穂城跡のぶらぶら散歩もいいかも。



公有地に設置された板塀



侍屋敷説明板



説明標柱

郷土の文化財

再発見!

皆さんはお住まいの地域の文化財をどれだけご存じでしょうか。教育委員会では地域ごとにその地域の文化財案内看板とそれぞれの文化財には説明標柱を設置しています。今回は福浦地区の案内看板を国道250号線沿いにある塩田公園に設置しました。まだまだ、すべての文化財に説明標柱は行き届いていませんが、計画的に説明標柱の設置をしていきます。また、『文化財をたずねて』も併せてご利用いただき、地域文化財を訪ねてみるのはいかがでしょうか。きっとあなたが知らない郷土の歴史にふれることができるでしょう。



福浦地区文化財案内看板



弥生時代の古代食体験

弥生人の食事体験

これまで土器づくり体験を行なってきましたが、今年度は文化財愛護月間となっている11月に火おこしと古代食体験—土器でごはんをつくってみよう!—を開催しました。

有年原・田中遺跡公園に隣接する田中児童遊園地で、11組36名の家族が炊飯器のかわりに土器でごはんを炊き、鉄板のかわりに石や、瓦でおかずを焼いて、薪を使った料理は難しかったようで、子供たちはもちろんお父さんや、お母さんの方が悪戦苦闘していたようです。古代体験をおして現代生活の良い点、悪い点をじっくり話し合っていました。

薪を使った料理は難しかったようで、子供たちはもちろんお父さんや、お母さんの方が悪戦苦闘していたようです。古代体験をおして現代生活の良い点、悪い点をじっくり話し合っていました。

文化財ニュース

発行 赤穂市教育委員会
編集 生涯学習課文化財係
(赤穂市加里屋81番地 TEL43-6858)

No. 9

21世紀の幕開け

赤穂城跡整備の促進

本年は、赤穂市が生まれて50周年、元禄赤穂事件から300周年を迎えます。さらに赤穂城跡では、築城完成340周年、国史跡の指定になってから30周年、城跡公園として供用開始してから25周年と記念すべき年でもあります。21世紀の幕開けになる本年は、本丸の厩口門復元整備完成、二の丸の花見広場整備完成、水手門船着場復元整備完成、錦帯池大名庭園の実設計策策定、三の丸の大手門枳形石垣復元整備完成と城跡随所を往時の姿に再生し、城郭景観の広がりをお私たちに提供してまいります。

厩口門の再現 (本丸)

赤穂城の心臓部とも言える本丸跡の整備は、昭和56年9月に赤穂高等学校が東浜塩田跡地に移転してから20年が経ち、厩口門復元の完成をもって総仕上げとなります。かつての校舎敷地は本丸庭園としてよみがえり、表御殿大池泉・奥御殿坪庭・くつろぎの池泉を中心

に御殿屋形間取りの遺構復元整備と併せて、蔵跡に便所、小姓部屋跡に休憩舎と現代風な整備も行っていました。さらに、説明板などのガイダンス施設整備、バリアフリー、ライトアップ



復元整備が進む厩口門

物となつていきます。本丸の名を象徴するにふさわしい素材をもって施すなど、それぞれ伝統の美を見せており、当時の工匠たちの花舞台で競い合った「巧」の数々と職人の真心が今なお私たちの心をなごませてくれるでしょう。

また、本丸門復元・厩口門復元は、視覚的に体感できるよう配慮されたもので、築城した石と同じ赤穂産花崗岩を用い、できるだけ国内産の木材と古米から引き継がれてきた伝統工法を守った仕上げがされ、木造・木瓦葺きが施された門、宝珠を飾り取った木の反り橋、白亜の漆喰上扉などの城郭建造

江戸元禄の桜の名所づくり 花見広場の整備(二の丸)

かつての運動場跡は、米蔵をしのばす長大な休憩舎、中央には野鳥の観察台も備えた自然的遊水池のエコパーク親水公園、その周りには江戸元禄期に咲き誇った桜の木々など、立体感の



米蔵風の休憩舎

ある情景によって景観誘導を高めてくれます。親水公園には、四季折々の水生植物がより一層空間構成を担ってくれ、市民の皆様にとっても身近な憩いの場となることを期待します。

水手門船着場が完成(二の丸) 全国でも数少ない海城を体感

城南緑地公園東入口の北水辺にある、水手門跡周辺の環境整



よみがえった水手門



花見広場の野鳥観察デッキ

備もほぼ完成間近となりました。発掘調査では、水手門の鏡柱礎石・控柱礎石がかつての位置のまま残されており、雁木(階段状の石段)と呼ばれる船着場、波よけの波止突堤が絵図のとおり大きさで見つかりました。水手門跡の両側の石垣積替、それに続く城内側に大きく曲がる水熱を含む石垣土塁の修復、雁木石段・波止突堤の復元を終え、往時の海岸平城を彷彿させる整備が完成しました。今年度夏までには、城南緑地から車椅子でも城に行けるバリアフリーに配慮したデッキ整備で、今日では稀となった海城をいつでも体感できます。これらの整備に

より江戸元禄期の草花が観賞できる花見広場とスポーツ・レクリエーションゾーンの城南緑地公園が一体化され、より一層連携した利活用になります。

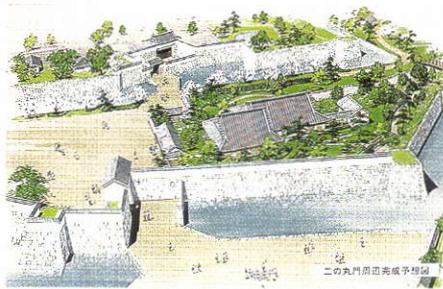
**錦帯池(大名庭園)は
新たな名勝つくり(二の丸)**

錦帯池発掘は、広範囲で大規模な近世大名庭園の発掘庭園として、全国の庭園・造園研究者の多くが現地視察に訪れ、全国的に脚光も浴びています。錦帯池は、現

地説明会でお知らせしたように、赤穂藩の迎賓館的な機能や藩主たちの遊興の場としての役割も果たしていたのではないか



錦帯池復元予想図



二の丸門周辺完成予想図

と考えています。立派で意匠工夫を凝らし整えた回遊式庭園の錦帯池を、一刻も早く、より良い大名庭園を目指して本年度設計を行う予定です。

整備の暁に



往来の道は石垣で閉ざされた大手門枡形

が見違えるようになりました。石垣は、さすが大手門らしく鏡石と呼ばれる畳2枚ぐらいの大きさの石が各所に見られ、見学者(入城者)を圧倒し感激させてくれます。修復した石垣の背後に回ると発掘調査で見つかった石段をさらに積み上げ、壮大な石垣を感じることができます。

は、みどり深まる園内から野鳥たちが飛び交う可愛らしい声が聞こえ、池泉の水面上には美しい青空が映し出され、汀の護岸石や底面の玉石は流水に洗われ色鮮やかなものとなり、二の丸跡に和やかで美しい景観が加わることとなるでしょう。

**大手門枡形復元の
念願達成(三の丸)**

赤穂城の顔でもある大手門枡形復元は、長年の念願でもあり、この整備により大手門周辺は、変えました。太鼓橋を渡り、大手門(高麗門形式)を潜ると左曲がり城へ入っていましたが右曲がりとなり、元どおりの枡形や広く大きくなった武者溜り



築城当時の姿をとり戻しつつある大手門枡形

赤穂城跡整備は、かけがえない歴史と文化を直に感じ、親しみのある場所提供や新しい赤穂の魅力づくりとなるよう取り組んでいます。歴史と伝統のある赤穂市の素晴らしさを次代に引継ぎ、全国に発信していきたいと願っています。

現在、城内では整備工事のため、ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします。

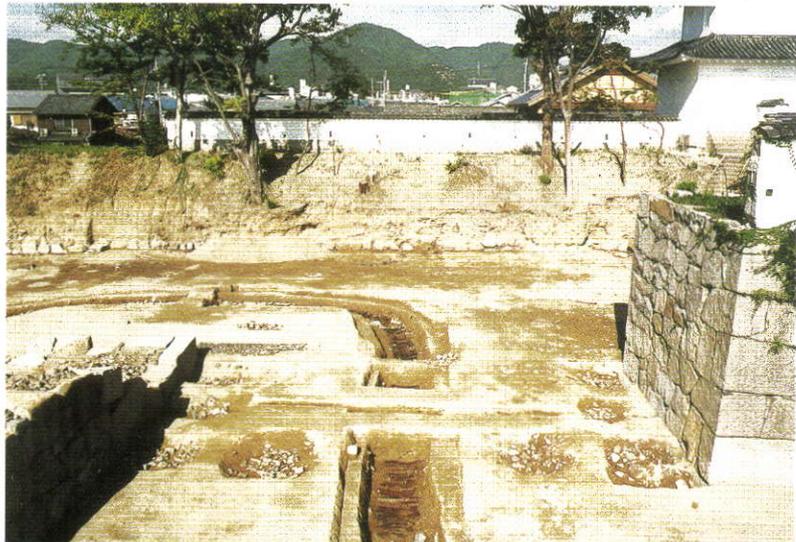
赤穂城跡大手門枡形発掘調査

赤穂城は、甲州流軍学に基づいて縄張りが行われ、各所にさまざまな土夫が凝らされてきました。大手門枡形もその一つで、戦のときの攻撃と防御を兼ね備えた施設として造られていました。しかしながら、明治19年に枡形の石垣は積み替えられ、大きく改変されてしまいました。今回赤穂城の表玄関である大手門枡形を往時の姿に修復することとなり、発掘調査を実施しました。

ち施設があったことがわかりました。旧上水道の遺構では、木樋・石樋・素焼き管・瓦管・竹管の他に、上水に混じった砂や泥を沈殿させ、上水を浄化するための施設であった一辺96cm、深さ126cmを測る大型の木製枡形が見られました。

その他、大手門に登るための「雁木」と呼ばれる石段や、土塁法尻の腰巻石垣、侍屋敷の上堀基礎石垣及び道の側溝が見つかっています。

櫓門があった位置からは、礎石の抜き取り跡が8カ所見つかり、櫓門の基礎部分が梁間2間(1間は約1・97m)桁行4間半の規模であったことが明らかとなりました。また、櫓門の前後には玉石を敷いた「敷敷き」と呼ばれる雨落



大手櫓門跡

赤穂城跡二の丸 錦帯池庭園発掘調査

赤穂市教育委員会が平成10年度から実施してきた発掘調査によって、赤穂城跡二の丸錦帯池庭園の全容が明らかになりました。

錦帯池は全周約950m、総水面積約3900m²を測る大名庭園にふさわしい雄大な規模であり、大小2つの中島を池の中に含む瓢箪形をしています。

上流部は大石頼母屋敷の南側にあたり作庭以降大きく3時期の変遷が確認できました。第1期は池底に玉石や板石を敷き詰めていましたが第2期には砂利敷きに改修します。第3期は護岸を池内部に移動し、約1m大の白然石の前面に砂利を敷き詰めて護岸汀線を州浜状に表現しています。各時期とも鑑賞を意識した造りであり、その時々における庭園主の好みの移り変わりがうかがえます。



赤穂城跡二の丸錦帯池庭園

ます。

錦帯池の南端から二の丸を南北に仕切る西仕切の石垣と西仕切門跡が見つかりました。石垣は古絵図に描かれているのとはほぼ同様に鍵状に折れ曲がり、本丸外堀内に突出する護岸石垣に連なっていることが確認できました。西仕切門跡も「赤穂城引渡一件」に記されているように、「口幅一間半、高さ一間、建坪三坪」であったことが確認できました。礎石の痕跡が南北の2基であったことから門の形式は「棟門」であったと考えられます。また西仕切の南側から古絵図に描かれていない池状遺構が見つかり、西仕切の際から大量の瓦が出たことから西仕切は瓦葺であったことがわかりました。

赤穂城下町跡発掘調査

赤穂城下町跡の発掘調査は、赤穂城跡への主要ルートとなっているお城通りの拡幅工事（都市計画道路赤穂駅前大石神社線整備工事）に伴う調査を中心に行い、重要な成果をあげています。宝永元年（1704）に描かれた「赤穂城下町絵図」における二町目筋の「好清」屋敷地に当る部分をポケットパーク整備に先立って調査しました。この屋敷地は平成10年度に北半、平成11年に東半の調査が実施され、建物の基礎列石や赤穂川上水道の遺構などが見つかっています。今回の調査区は南半に当り、二町目筋から北に伸びる旧上水道の瓦管と西に方向を変える桶枡や水琴窟が見つかりました。水琴窟は庭に伏せて埋めた甕の底の小さな穴から水滴が水面に落ち、内部に反響して琴のような音を出すしかけであり、赤穂市

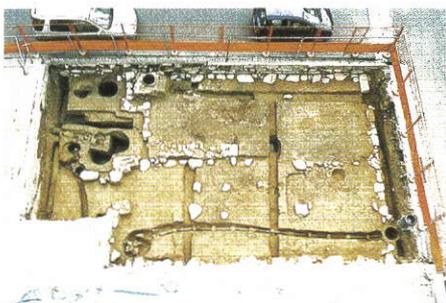


二町目筋の水琴窟

内では発掘調査における初めての出土となりました。

田町筋の西側の調査地は、「五郎右衛門」の屋敷地と「治兵衛かしや」にあたり、防火水槽及び公衆トイレ設置に先立って調査を実施したところ、屋敷地の境界を示す石組の溝跡や列石が見つかりました。特に石組の溝跡は残りが良く、深さ約60cm、3〜4石が積み上げられていました。また建物礎石や旧上水道の汲出枡などが見つかっています。

田町筋の東側に位置する「五郎右衛門かしや」からは、建物跡の基礎が非常に良好な状態で発見されました。建物は間口4間（7・88m）、奥行5間（9・85m）で、中央を土壁で仕切り、北側2間分は6帖間、8帖間、6帖間の3

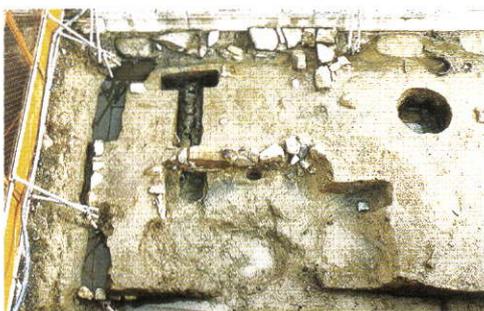


田町「五郎右衛門かしや」

部屋を縦に並べ、南側2間分は、「通りにわ」と呼ばれる上間としており、竈跡も見つかっています。

三町目筋の「弥四郎かしや」、通り町筋の「又右衛門」、「甚蔵」の調査では、建物礎石や竹管・瓦管・素焼き管・間枡等の旧上水道施設や道側溝の石列などが発見されました。特に、「弥四郎かしや」からは、屋敷地の奥から池泉跡が見つかっており、町人の文化的な側面をかいま見ることができました。

城下町跡からは、食器類の他に、泥面子、銭貨、水滴、煙管、引き手金具、小柄、砥石、硯、碁石、手洗石、独楽、下駄、漆碗といった当時の生活をしのべる多種多様な日用品が数多く出土しており、町人の生活・娯楽・遊び・文化等が非常に豊かであったことがうかがえます。



「弥四郎かしや」池泉跡

伝統文化で地域活性化

文化庁の「芸術文化・伝統文化による地域活性化プラン」事業により、獅子舞や伝統技術などの団体に、後継者育成やまちづくりなどの地域活性化のため、事業費全額の補助が出るようになりました。

赤穂市では、次の4団体の事業が採択され、短期間での修理でしたがこのほど完了しました。今年の秋の祭りには、修理あるいは新調された用具がお目見えすることでしょう。

先人が残してくれたかけがえない赤穂の伝統芸術や技術が、さらに次世代に引き継がれ、個性あふれる赤穂の文化へと抜け、まちの活性化に繋げていただけたらと考えます。

- 坂越の船渡御祭保存会
- 赤穂八幡宮獅子舞保存会
- 天和獅子舞保存会
- 赤穂緞通保存会



修復された楽船

身近な文化財の相談役

赤穂市文化財保護連絡員のご紹介

教育委員会では任期満了に伴い、平成13年4月1日から新たに赤穂市文化財保護連絡員を委嘱しました。

市内各地にはさまざまな文化財が数多く残されています。こうした貴重な文化財を保護し後世に継承していくため、各地区ごとに文化財保護連絡員を委嘱しております。文化財保護連絡員の皆さんには、地域の身近な文化財に関する情報の提供・点検活動・調査研究など文化財の保存・活用に対して幅広い活動と協力をお願いしております。市民の皆さんとともに、文化財について気軽に相談したり協力し合ったり、貴重な歴史文化遺産を子孫に守り伝えていく地区のリーダーとして活躍していただいておりますので、文化財についてお気軽にご相談していただいたり、情報提供をお願いいたします。

文化財保護連絡員の皆さんです。どうぞよろしくお願います。

します。

赤穂	青山 秀夫	④0159
城西	大休 宗一	④37528
	田中 正彦	④34722
	山田 明憲	④31110
塩屋	森津 庸子	④37825
	木村 繁満	④35617
	赤松 光弘	④30822
西部	沖 照幸	④32078
	吉柄 清美	④30430
	有吉 敦	④30526
尾崎	上杉 太郎	④31016
	梅山 知子	④50889
御崎	山脇 拓士	④31618
	野山貴久子	④39411
坂越	照峰 清熙	④37439
	尾上 松男	④38351
	倉橋 貞夫	④38063
高雄	松本 保	④38371
	大黒 正昭	④38254
	藪内早智子	④37550
有年	中山 茂雄	④32168
	池本 芳文	④32730
	竹平 慎一	④32184
	立花 良和	④32673

(任期 平成15年3月31日)

郷土学習にお役立てください！ 赤穂市埋蔵文化財 調査事務所

有年中学校の東にあります赤穂市埋蔵文化財調査事務所をご存じでしょうか。

赤穂市教育委員会が行った発掘調査で出土した重要な出土遺

物を展示公開しております。主な展示物は、有年原・田中遺跡から出土した建物の柱材や墳丘墓から出土した器台・壺・高坏をはじめとするおびただしい土器類、東有年・沖田遺跡から出土した全国的にも極めて珍しい古墳時代の土馬や装飾須恵器、有年牟礼・山田遺跡から出土した「秦」の文字が記された須恵器片などいずれも貴重なものです。

また、出土遺物展示のほかに、八千冊を超える歴史・文化財関係の図書や調査報告書の公開を行っております。図書は現在のところ毎週金曜日の午前10時から12時まで自由に閲覧していただくことができます。

こうした公開活動のほか、通常は市内の発掘調査で出土した土器などの遺物の復元作業・報告書作成などの業務を行っておりますので、見学していただくこともできます。

このように赤穂市の文化財資料を多く取りそろえておりますので、皆様の歴史研究や郷土学習に是非ご活用ください。

◆場所◆

赤穂市東有年68番地(有年中学校の東100m、旧有年公民館)

◆開館日・時間◆

月曜日・金曜日(祝日は休館)
午前9時～午後5時
TEL ④3691



調査事務所展示フロア

新刊図書案内

●赤穂の石灯籠(2冊セット)

1セット 2300円

市内全域の石灯籠を網羅し、刻銘等も詳細に記載した調査報告書。地図に場所を明記しハンドブックに最適。A4判292頁。

●東有年・沖田遺跡の風景

1冊 900円

ほ場整備事業に伴う発掘調査の成果を豊富な写真や図と、平易な文章で紹介した図録。オリジナルカラー。A4判38頁。

●有年原・田中遺跡2

1冊 350円

宅地開発事業に伴う発掘調査報告書。弥生時代中期の堅穴住居や溝・土坑などを検出。A4判22頁。

文化財ニュース

発行 赤穂市教育委員会
編集 生涯学習課文化財係
(赤穂市加里屋81番地 TEL 43-6858)

No. 10

赤穂城跡整備進む

よみがえった 本丸厩口門

力強い石垣と柔らかく暖かみのある木造古建築、眩しいばかりの白い漆喰塀。その漆喰に写し出される堀水の波紋。

平成8年から発掘調査、石垣修理が進められていた厩口門跡は、昨年12月に門、漆喰塀、木橋の復元整備が完了し、門周辺は築城当時の姿に再現されました。



厩口門

復元された門は、高さ約6mの高麗門で、門の両脇には高さ2.4mの漆喰塀が、全長74mにもわたって復元されています。門前の堀には長さ約8m、幅4.5m

の木製の反り橋が架けられています。

復元整備に伴って昨年6月に開催いたしました瓦記帳会で、ご記帳いただきました瓦は、高麗門に葺かれています。

赤穂城の魅力溢れる新しい見所となった厩口門。あなたも散歩がてら訪れてみませんか。

錦帯池庭園 (二の丸)

平成10年度から進めてきました、二の丸庭園「錦帯池」の発掘調査も平成13年12月をもって終了いたしました。発掘調査によって明らかとなった大名庭園は、大きな池を中心とした雄大な庭園で、かつてはここで藩主や山鹿素行らが船遊びを行ったこともよく知られています。

この貴重な大名庭園を、市民や観光客のみならず鑑賞していただくよう、現在のところ復元整備の設計を進めているところです。いよいよ平成14年度からは復元整備を開始いたします。整備の完成までにはもう少し時間が必要ですが、世紀をこえてよみがえる大名庭園にぜひご期待ください。

花見広場と 水手門(二の丸)

二の丸は赤穂城跡の中心である本丸を取囲む郭であり、その南側は都市公園として整備が進んでいます。花見広場は以前の赤穂高等学校グラウンド跡地でしたが、市民の憩いの場として生まれ変わりました。「元禄桜苑」は、刃傷事件のあった江戸時代元禄年間頃に咲いていた桜の品種を中心に植栽されています。発掘調査によって明らかにされた「遊水池」には、水生植物や野鳥が観察できるデッキが整備されました。また、「芝生広場」も黒松などの常緑樹や桜が周辺に配置され、江戸時代の米蔵を模した休憩所と合わせて安らぎの空間を演出しています。



錦帯池庭園



花見広場

赤穂城跡の南に位置する城南緑地から、花見広場に至るルートも整備されました。城の最南に配置された水手門の東側には、海城であることを窺わせる波よけの突堤と船着場が立派に復元整備され、周辺の城壁土塁も積替えて修理されました。総合体育館前から突堤と船着場の上に乗った城郭景観を体感しながら水手門より城内に入りますと、元禄の桜が咲き乱れる花見広場へと皆さんを誘います。



水手門

赤穂城跡 大手門枘形整備

小学生が石垣修復体験
大手門枘形周辺は平成12年から発掘調査と石垣修理を進めています。今回、修復が行われた大石内蔵助屋敷石垣の積上げには赤穂西小学校の6年生35人が参加してくれました。

石垣の積み上げには、ジャッキと三ツ又を使い、昔ながらの方法で石垣を積み、思い出に残る体験をすることができました。

その他にも、昔の人の苦労と技術を学ぶため、1.5tもの石材をコロとロープを使って運ぶ石曳きや、クサビを使っての石割りなど伝統的な技術を体験しました。



石垣修復体験

平成14年には土塀の復元などを行い、平成15年の早春には江戸時代の姿よみがえった大手門枘形を見ることができるよう。



大手門枘形周辺石垣修理

子供たちは、自分たちの学校の周辺が、赤穂城の石垣石材の産出地であったことを再認識し、郷土の歴史や伝統技術に強い関心をもったようです。

大手門枘形周辺の整備は、現在まで枘形石垣、大

赤穂城跡ボランティア

皆さんご存じでしょうか。赤穂城跡内にある建物のうち、本丸櫓門と近藤源八宅跡長屋門を土曜・日曜・祝日に無料公開しており、公開の際にはボランティアの方たちのご支援をいただき、赤穂城や施設の説明もされています。

いつもやさしく親切な語り口は、観光客の皆さんにも大好評です。その中の一人神坂晴子

さんは「全国様々な場所の人たちが来られて、よく忠臣蔵のことをご存じなので、私達も勉強させてもらっています。説明を聞いて喜んで帰ってもらおうという気持ちです。」と話してくれました。赤穂城跡ボランティアに興味をもたれた方は、教育委員会までご連絡ください。



赤穂城跡ボランティアの皆さん

東有年の光明寺町石が市指定文化財に新指定



光明寺町石

平成13年11月22日に歴史資料として東有年の黒沢山にある光明寺町石が市指定文化財となりました。

町石とは、参詣道が長い場合、本堂から1町(約100m)ごとに建てたものです。光明寺町石も山麓の有年栢原から黒沢山頂にある光明寺までの参道に建てられていましたが、現在ではその大半は失われ、奥院に4基、有年考古館に2基がそれぞれ保管されているのみとなっています。

町石は、いずれも花崗岩製で、高さ85cm前後です。形は基礎を長くした五輪塔形式のもので、基礎部に経典名や町数、願主名などが刻まれており、単なる標識というだけではなく、これを礼拝しながら参詣した人は功德にあずかれるとされていました。造立年代は、その様式から室町時代中期と考えられ、市内に唯一残された中世町石群として貴重な歴史資料といえます。

文化財案内看板設置



J R 天和 駅

赤穂市教育委員会では、市内各地区に文化財案内看板を設置しています。本年度はJR坂越駅と天和駅に設置しました。皆さんがお住まいの地区だけでなく、赤穂市内にはたくさん文化財があります。最寄りの駅から一つ隣の駅には、なかなか行かないものです。小旅行気分で行ってみませんか。あなたはまだ知らない「赤穂」に出会えるはずです。



J R 坂越 駅

赤穂市制50周年記念事業

赤穂市制施行50周年記念事業として、様々な催しがとり行われ、文化財関係は次のとおり。

文化財講演会

渡辺武大阪城天守閣名誉館長を講師に、『城跡整備はこれいいのかー現状と今後の課題ー』の演題で講演いただき、赤穂城跡整備について市民の皆さんと協働参加の城づくりについて考えました。(3月31日)



文化財講演会

財団法人有年考古館 創立50周年記念講演会(共催)



有年考古館講演会

今里幾次氏(日本考古学協会会員)を講師に、『蓮華紋鴟尾の生産と流通ー西播磨特産の鴟尾は語るー』の演題で講演いただきました。西播磨の古代に思いを馳せました。(4月29日)

赤穂城跡本丸厩口門 瓦記帳会

厩口門復元整備を記念して、整備に使用する瓦に記帳していただきました。参加された皆さんは、思い思いに名前や言葉を書き連ね、「後々まで残り、思い出になる。」と喜ばれていました。(6月2・3日)



瓦記帳会

新作能面展

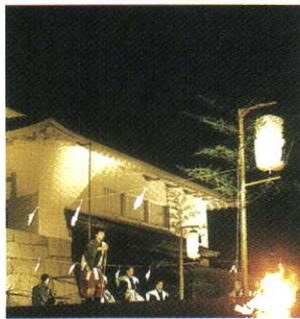
赤穂城跡本丸櫓門2階において、関西面友会会員奥藤慎治・福原正浩両氏が作成された新作能面を展示しました。能面のもつ情感が、櫓門の古式ゆかしい様相と相まって一層引き立っていました。(7月20・29日)



新作能面展

赤穂城薪能(後援)

観世流能楽師、無形文化財総合指定保持者の杉浦元三郎師ほか、ワキ方、囃子方、地謡方により、舞囃子「高砂」、狂言「蝸牛」、能楽「土蜘蛛」が演じられました。本丸櫓門が篝火に照らされ、見る人を幽玄な能の世界へと誘いました。(7月28日)



赤穂城薪能

遺跡公園体験学習会 勾玉づくり・土器づくり

東有年・沖田遺跡公園において市内の小学生が古代の勾玉と土器づくりに挑戦しました。勾玉は材料の滑石を一生懸命削っ

て形を整え、作った土器は古代の火起こし体験とともに、有年原・田中遺跡公園児童遊園で焼きあげました。(7月22・29日、8月25・26日)



土器づくり

文化財マップ

市制50周年を記念して発刊された、『赤穂市市民ハンドブック』に掲載されています。赤穂市内の国・県・市指定文化財が写真と説明文付きで網羅されています。文化財散策にお役立てください。(9月1日)



文化財マップ

近世大名庭園フォーラム

発掘調査によってその全貌が明らかにされた赤穂城跡一の丸

錦帯池が復元整備に着手されるにあたり、庭園研究の第一人者が集まって盛大に催されました。パネラーの先生方によって大名庭園の持つ意味が語られ、会場熱気から整備への期待と感心の高さが窺えました。(9月9日)



近世大名庭園フォーラム

赤穂歴史探訪 ウォーキング

赤穂鉄道が廃止されて50年が経ちました。参加者は、赤穂の発展に大きな役割を果たしたその活躍に思いを馳せて、それぞれのペースで線路・駅跡を訪ね歩き、皆さんが完歩されました。(2月24日)



歴史探訪ウォーキング

生島樹林保護作戦

250名のボランティアが応援



伐採している様子

の服部保教授らの指導を受け、照葉樹林を覆っていた約1万5千本のムベのツルを切り取り、併せて島の岸に漂着していたゴミの清掃活動も行いました。こうした活動は今後数年継続して行う予定であり、生島樹林を後世に守る努力がなされていきます。

大正13年に国の天然記念物に指定され、国立公園特別保護区（昭和32年指定）にもなっている樹林を保護しようと、坂越湾に浮かぶ生島で2月16日、異常繁殖したムベのツル伐採に取り組みました。兵庫県内各地からボランティアら約250人がつめかけ、姫路工業大学 自然・環境科学研究所長の



検出された上水道の汲出枡

た屋敷地にあたります。調査範囲が小さいため、屋敷地全体の様子はよく分かりませんが、屋敷内に引き込まれた水道や、建物礎石・屋敷境の塀の跡などが見つかりました。また伊万里・唐津・備前などの食器類、銭貨、キセル、砥石、下駄といった日用品が出土しています。

「お城通り」として親しまれている都市計画道路赤穂駅前大石神社線の整備工事に伴って、城下町跡の発掘調査を行いました。今回調査を行ったのはかつての通り町と三町目筋にあたる部分で、花岳寺所蔵の「赤穂城下町絵図」（宝永元年・1704）によると、通り町では「久右衛門」「甚蔵」「又右衛門」「善右衛門」「七兵衛」、三町目筋では「弥四郎かしや」といっ

赤穂城下町跡発掘調査



出土した木簡

加里屋まちづくり会館建設に先立って、城下町跡船入の北側にあったとされる船頭屋敷にあたる部分の発掘調査を実施しました。屋敷跡は森氏時代以降に船入が埋め立てられて耕地化されたため見つかりませんが、江戸時代末頃の穴から大量の木簡が出土しました。木簡には「烏撫村」、「塩屋村」、「竹方村」など旧赤穂郡内のほか、「長尾村」や「畑村」など他地域の村名や送り名が書かれており、当時の物資流通の様子を知る上で貴重な発見となりました。

そのほか19世紀頃の陶磁器や下駄・漆碗などの木製品も出土しており、往時の町人の生活が偲べれます。

文化財図書公開

有年中学校の東にある埋蔵文化財調査事務所（旧有年公民館）では、毎週金曜日午前10時から12時まで、八千冊を超える歴史・文化財関係の図書や発掘調査報告書の公開を行っています。

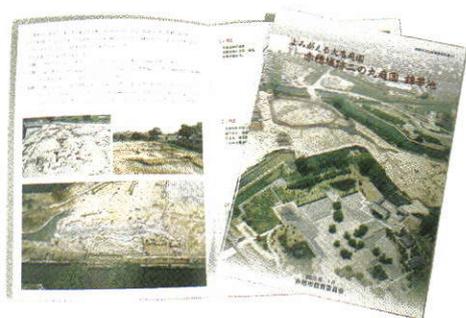
公開時間には、地元有志の方が図書公開ボランティアとして図書室に詰められ、閲覧の手助けをされています。

その中の一人横山博光さんが江戸時代の終わりから明治時代初め頃に使われていた教科書を譲り受け、古い本を閲覧できるようにコピーして調査事務所に置かれていますので、是非一度ご覧ください。また室井正彰さんは「ここに来て皆さんと話しているだけで勉強になるので楽しい。」と話してくれました。皆さんも気軽に来てみませんか。



図書公開ボランティアの皆さん

新刊図書案内



赤穂市教育委員会では『よみがえる大名庭園 赤穂城跡二の丸庭園錦帯池』と題した小冊子を刊行いたしました。

この冊子は、平成10～13年度に発掘調査した二の丸庭園錦帯池の発掘調査の成果を、写真や図を中心に、平易な文章と大きめの文字を用いてわかりやすく紹介したものです。

赤穂市教育委員会事務局、赤穂市立歴史博物館、埋蔵文化財調査事務所（旧有年公民館）にて販売しております。

◆『よみがえる大名庭園 赤穂城跡二の丸庭園錦帯池』

A4判 カラー 10頁

写真25点 挿図7点

1冊 300円

文化財ニュース

発行 赤穂市教育委員会
編集 生涯学習課文化財係
(赤穂市加甲屋81番地 TEL 43-6858)

No.11

国指定名勝 赤穂城跡二之丸庭園整備完成予想図



赤穂城跡本丸庭園・二之丸庭園が名勝指定

平成14年9月20日、文部科学省から「本丸庭園」と「二之丸庭園」が合わせて「旧赤穂城庭園」として国の名勝に指定されました。赤穂市内で7番目の国指定文化財であり、名勝としては田淵氏庭園について二つ目と

なります。近世大名庭園としては全国で29番目、城郭庭園としては二条城二之丸庭園（京都府京都市）・名古屋城二之丸庭園（愛知県名古屋市中区）・和歌山城西之丸庭園（和歌山県和歌山市）・旧徳島城表御殿庭園（徳

島県徳島市）・石田城五島氏庭園（長崎県福江市）に続いて6番目の指定となりました。

指定された二つの庭園は、ともに城郭内に築かれた「城郭庭園」であり、本丸と二之丸の庭園が一体となって保存された江戸時代初期の大名庭園で、二之丸庭園については山鹿素行の日記などから庭園利用の一端を知ることのできる極めて貴重なものです。

本丸庭園は御殿に付随した庭園で、御殿南面の大池泉、中奥の坪庭、本丸北西部に位置する池泉などによって構成されています。なかでも大池泉は岬・入江・中島・景石などを備え、池底には板石や瓦を幾何学的に配するなど特徴ある造形を見せています。これらの池泉はいずれも発掘調査によって見つかった池泉を復元整備したもので、現在は本丸御殿間取りとともに、往時の御殿と庭園景観をしのばせています。

二之丸庭園は、二之丸北西部を占める大規模な庭園で、大石頼母助の屋敷跡の南側に面する流れの池泉と、それに連なる二つの中島を備えた雄大な池泉を中心に、茶亭などが設けられて



本丸庭園の整備状況

いました。山鹿素行はこの池泉のことを「錦帯池」と呼び、そこで舟遊びなどを行ったと記しています。この庭園は平成10年度から進めておりました発掘調査によってその全貌が明らかにされました。赤穂市では、市民の皆さんや観光客の方がたに江戸時代の庭園文化を体感していただけるよう、現在復元整備を進めています。

なお、往時は本丸庭園・二之丸庭園ともにその池泉への給水は上水道の水を利用しており、上水道が生活用水だけでなく庭園にとっても非常に重要な存在であったことがわかります。かつて赤穂城には、本丸や二之丸のほかに、侍屋敷があった三之丸にも多くの庭園が築かれていました。これらの庭園の築造は上水道の完備がその基盤となっており、今回名勝指定を受けた二つの庭園のみならず「旧赤穂城庭園」の大きな特徴のひとつと言えます。

赤穂城跡大手門の枳形整備が完了

私たちが見慣れていた大手門枳形の姿は、明治19年（1886）に本来とは全く異なった形に改変されたものでした。

大手門は、赤穂城跡の顔とも言える重要な部分であるとともに、私たちにとって非常に親しみ深い場所であるところから、その復元整備は多くの方がたの強い願いでもありました。その長年の念願がかない、いよいよ完成となりました。

大手門枳形周辺整備は、文化庁及び兵庫県補助事業として平成11年（2000）の周辺用地の公有化から始められました。翌年には発掘調査を実施し、古絵図や古写真からでは知ることの出来なかつた多くの調査成果に基づいて石垣修理工事が始められました。石垣修理は



整備中の番所跡休憩所

昨年ではほぼ完了し、平成14年度は大石内蔵助屋敷土塀、土塁土塀、板塀、照明施設、舗装、安全柵、車止め、クロマツの植栽、番所跡休憩所などの周辺整備が実施されました。

大石内蔵助屋敷土塀は、伝統的工法を用いた本格的な築地塀で、本瓦葺きの漆喰塀が復元されたことで築城当時の景観をまたひとつ取り戻すことができました。

番所跡休憩所は、発掘調査で見つかった大手門の番所跡と同じ場所に建てられた休憩所ですが、概観は番所建物を模したもので、門番がほんとうに出迎えてくれるようなたすまいとなっています。内部には赤穂城跡と大手門の説明板や、年表、赤穂城の全体図を記した案内板を設置し、赤穂城跡の表玄関を飾るにふさわしいものとなっています。

4カ年という長期間の整備となり、皆様にはご不便をおかけしましたが、江戸時代の姿にみえた大手門枳形にぜひ一度お越しください。



発掘調査速報

赤穂市教育委員会で、赤穂城跡の史跡整備事業に関する基礎資料を得るため、継続的な発掘調査を実施しています。

平成14年度は、赤穂城跡二之丸門枳形周辺の発掘調査を実施しました。現在の赤穂城は、寛文元年（1661年）

に浅野長直が甲州流軍学をもとに築いたものですが、文献では、当時の著名な軍学者であった山鹿素行が二之丸門の枳形

虎口を變更させた、との記述が残っています。果たして発掘調査を実施してみたところ、残っていた部分は枳形石垣の根石部分のみでありましたが、増築した痕跡が見つかり、文献を裏

付けていることとなりました（左上写真）。

赤穂城跡以外の主な調査として赤穂城下町跡の発掘調査があります。JR播州赤穂駅から赤穂城跡を結ぶ通称「お城通り」の街路拡幅事業に伴い、平成10年度より発掘調査を継続的に実施しているものです。

赤穂城下町は、慶長5年（1600）に播磨を支配した池田氏が整備し、その後正保2年（1645）に赤穂に入封した浅野長直によって拡大整備されました。これまでの発掘調査では、江戸時代前期から後期の建物礎石のほか、赤穂を代表する遺構である上水道施設が見つかっています。

今回の発掘調査では、いくつかの新しい成果がありました。一つは、明治時代の鍛冶施設の発見です。赤穂に限らず、近代には各地域ごとに「野鍛冶」と呼ばれる簡易な鍛冶屋がいました。こうした施設は近年の開発により忘れ去られたまま破壊されるが多く、今回の発見は意外と詳細がわかっていない、明治時代の赤穂についての貴重な資料となります。

もう一つは、江戸時代前期の建物礎石の発見です。今までの発掘調査では、この時期の明確な建物が見つかっておらず、当時の生活は遺物のみでしか知り



江戸時代の遺物が多く出土



鍛冶施設の現地説明会

得ないものでした。しかし今回の建物礎石の検出は、当時の建物構造を考えるうえでの重要な成果と言えます。また場所は異なりますが、陶磁器をはじめ、硯、火鉢、瓦といった江戸時代前期の多量の遺物がかたまつて出土したこと（右写真）も、当時の生活様式をうかがわせる貴重な成果となりました。これらの調査ではすべて現地説明会を開催し、300人以上の参加者が熱心に聞き入っていました。

有年原・田中遺跡出土土器が



ドイツへ貸し出し

平成元年3月4日、新聞紙上のトップをかざり、全国にその名を知らしめた有年地域にある弥生時代の下墓「有年原・田中1号墳丘墓」。前方後円墳出現の大きな鍵を握ると考えられる墓の形と、葬送儀礼に使われた装飾性豊かな器台、壺、高杯は、今でも赤穂市を代表する重要な遺構・遺物で、遺跡は県指定文化財となり、現在遺跡公園として広く活用が図られているところだ。

この1号墳丘墓から出土した葬送儀礼用の器台、壺、高杯等の土器が、日本を代表する考古資料の一つとして、文化庁とド

イツ連邦共和国ライプス・エンゲルホルン博物館が主催する「(仮称)曙光の時代―日本原始・古代展覧会―」展に出品されることになりました。展示期間は、平成16年7月から平成17年1月までが予定されており、その間はドイツに渡ることになります。

これらの土器は、今まで東有年にある埋蔵文化財調査事務所で展示していましたが、海外出展に先立ちまして赤穂市役所ロビーにおいて記念展示をいたします。詳しくは『広報あこう』でお知らせいたしますので、ぜひこの機会にご覧ください。



有年原・田中遺跡の器台・壺形土器

有年考古館 講演会

松村 恵司 氏

「飛鳥池工房と富本銭」

—4月27日開催—

4月27日午後2時より有年考古館において松村恵司先生による講演会が開かれます。『飛鳥池工房と富本銭』の講演会が開かれます。

松村先生は現在、独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所、飛鳥藤原宮跡発掘調査部の考古第2調査室長を勤めておられます。先生は1999年に

奈良県飛鳥池遺跡の発掘調査で富本銭とその製造関連遺物を発見され、日本で最初に造られた通貨が、708年発行の「和銅開元」より古い、7世紀後半の「富本銭」であることを突き止められました。

またこのほか墨書土器、古代の支配体制の研究などに邁進され「古代官衙・集落研究会」を主催するなど活躍中です。

問合せは赤穂市教育委員会生涯学習課 (☎ 068558)。

平成13年度に赤穂城跡大手門枘形周辺整備に伴う発掘調査によって発見された赤穂上水道の間枘が、保存処理も完了し、現在歴史博物館で展示されています。

間枘は、川から引いた上水に含まれているゴミや砂をそこで沈殿させ、上水を浄化するためのものです。そのため大小を問わずほとんどの上水管に備えられていました。

この間枘は、城内の上水管の間枘であり、6〜9cmもの厚い板材(マツ材)を組み合わせ、内法一辺96cm、高さ121cmを測る、非常に大きなものとなっています。

赤穂城跡大手門出土
上水道

公開中

枘

～歴史博物館にて～

あったため、取り上げて乾燥させてしまうと、変形したり、ひび割れが生じ、壊れてしまうのです。そこで、保管、展示するためには科学的な保存処理が必要となってきます。それには様々な方法がありますが、今回は間枘に含まれている水分を分子量の低いアルコールに置き換えた「高級アルコール含浸法」と呼ばれる方法で保存処理されています。

この間枘は、築城から昭和初期の上水大改修までの間の、約250年以上もの長期にわたって使われたものがあり、赤穂の誇る赤穂上水の貴重な資料です。



石造物調査活動の紹介

報告書の販売案内

私たちの身近な文化財に石造物があります。石造物には文字が刻まれていることもあり、地域史を語る貴重な資料です。

赤穂市では、文化財保護連絡員によって石造物調査が継続的に行われており、これまで知られていなかった石造物の発見や新事実の判明など、多くの調査成果が得られています。現在これらの調査成果をまとめた報告書が3冊作成されています。今後も『赤穂の石碑』『赤穂の石仏』などを発刊する計画です。連絡員の調査活動にご協力くださいますようお願いいたします。

報告書は、赤穂市教育委員会、歴史博物館、民俗資料館、田淵記念館、埋蔵文化財調査事務所（東有年）にて販売しています。郵送希望の方は、教育委員会生涯学習課（☎46858）までお問合せください。

■石造物関連の既刊図書■

- 『赤穂の鳥居と狛犬』 1100円
- 『赤穂の注連柱』 1500円
- ・ 百度石・手洗石』 2300円
- 『赤穂の石灯籠』 (2冊セット) 2300円

赤穂市文化財保護連絡員のご紹介



活動と協力をいたしていただき、市民の皆さんとともに、文化財について気軽に相談したり協力し合って、貴重な歴史文化

教育委員会では、任期満了に伴い平成15年4月1日からの赤穂市文化財保護連絡員を委嘱しました。市内各地には様々な文化財が数多く残されています。こうした貴重な文化財を保護し後世に継承していくため、各地区ごとに文化財保護連絡員を配置しております。文化財保護連絡員の皆さんは、地域の身近な文化財に関する情報の提供・点検活動・調査研究など、文化財の保存活用に対して幅広い活動と協力をいたしていただきます。市民の皆さんとともに、文化財について気軽に相談したり協力し合って、貴重な歴史文化

遺産を子孫に守り伝えていく地区のリーダーとして活躍されておりますので、ぜひ情報などをお寄せください。祖先が築いてきた大切な文化財は私たちの手で守り、次の世代へと引き継いでいきたいと思います。

今期の文化財保護連絡員の皆さんは次の方がたです。

- | | | |
|----|-------|--------|
| 赤穂 | 青山 秀夫 | 420159 |
| 城西 | 大休 宗一 | 437528 |
| 城西 | 田中 正彦 | 434722 |
| 城西 | 山田 明憲 | 431110 |
| 塩屋 | 森津 庸子 | 437825 |
| 塩屋 | 木村 繁満 | 435617 |
| 西部 | 赤松 光弘 | 430822 |
| 西部 | 沖 照幸 | 432078 |
| 西部 | 吉栖 清美 | 430430 |
| 尾崎 | 有吉 敦 | 430526 |
| 尾崎 | 上杉 太郎 | 431016 |
| 尾崎 | 梅山 知子 | 450889 |
| 御崎 | 山脇 拓士 | 431618 |
| 御崎 | 野山貴久子 | 439411 |
| 坂越 | 照峰 清熙 | 487439 |
| 坂越 | 尾上 松男 | 488351 |
| 坂越 | 倉橋 貞夫 | 488063 |
| 高雄 | 松本 保 | 488371 |
| 高雄 | 大黒 正昭 | 488254 |
| 高雄 | 数内早智子 | 487550 |
| 有年 | 中山 茂雄 | 492168 |
| 有年 | 池本 芳文 | 492730 |
| 有年 | 竹平 慎一 | 492184 |
| 有年 | 立花 良和 | 492673 |

(任期 平成17年3月31日)



赤穂城跡愛護ボランティアをしてみませんか？

赤穂城跡は、ここ数年来の整備復元によって往時の姿がよみがえりつつあります。また、本丸櫓門、近藤源八宅跡、長屋門（源八長屋）を土・日曜日、祝祭日等に無料公開し、ガイドボランティアの活躍もあって見学者に大変喜ばれています。

来たる平成18年に開催される『のじぎく兵庫国体』を迎えるにあたり、ボランティアの充実拡大を図るため、今回新たに募集を行うことといたしました。

お願いしたい内容は、城跡内の清掃や見回り、草木の手入れ、観光客の応対、施設の説明や案内などです。なお、詳細は未定ですが、ボランティア希望者の方を対象に数回の研修を予定しております。ボランティア活動を通じて、全国各地から来られた方がたと気軽に語り合



赤穂城跡愛護ボランティアの方がた

い、心のゆとりを育んでみてはいかがでしょうか。始めてみたい方は生涯学習課（☎46858）までご連絡ください。

赤穂城跡散歩のマナー

近年は、ずいぶん城への見学者が増えておりますが、それに比べて心配されるのがマナー違反の問題です。

市では、ボランティアのご協力も得て様々な方法で城跡の清掃などを行っていますが、その中で目立つのがタバコの吸殻ポイ捨て、犬の糞放置などです。また、禁止となっている本丸への自転車乗入れや、ペットの持込みもしばしば見られます。これらは、いずれもその人のマナー意識によって改善されるべきものであり、赤穂を『住みよい清潔な町』にするためにも、ご協力をお願いします。